

70

FAX送信のご案内

令和2年 6月5日

送付先

障がい者福祉研究所 様

電 話： 0438-38-6110

FAX： 0438-38-5610

送付元

高知県土佐市波介1276-4

社会福祉法人 太陽福祉会
第1太陽福祉園

電 話： 088-850-2385

FAX： 088-852-6125

担当： 栗 山

送信枚数

2枚 (表紙含む)

アンケートの回答を送信します。

よろしくお願いいたします。

問題点の概要	1 保護者が勤務している職場からの通達により、本人及び家族が自宅以外での宿泊を禁止される。 2 学校が休校になり職員の勤務に支障をきたした。 3 送迎車内の3密を改善が図れない。 4 朝夕の消毒作業で通常の業務に支障をきたしている。 5 研修会等が中止になった。
具体的事例	1 家族である利用者が短期入所事業所の利用ができなくなった。 2 平日は職員の子どもの世話を両親が行ってくれていたが、週末は頼めなくて余暇活動の勤務を休まざるを得なかった。 3 送迎車内の3密を少しでも緩和するため可能な場合は家族の送迎をお願いしたが、家庭の諸事情もあり一部にとどまり大きな効果はなかった。また、送迎車の利用を気兼ねして欠席が多くなった利用者がいる。 4 消毒作業を行うことで朝は支援に入る職員が手薄になり、夕方は支援記録などの業務の時間を取られてしまった。 5 職員の研修や資格の取得が予定通りに進まなくなってしまった。

GP

F A X 送 信 票	
送信年月日	令和2年6月5日
送 信 者	長野県木曽郡上松町大字荻原字中島1460
	社会福祉法人 木曽社会福祉事業協会 ワークステーション「すてっぷ」
	しやちやう たうえあきひこ 所長 田上昭彦
	連 絡 先 TEL 0264-52-2903
	FAX 0264-52-2901
受 信 先	障がい者福祉研究所 足高 様
件 名	新型コロナウイルス感染症を原因とする福祉現場への影響に関するアンケート調査について
送信枚数	送信票を含めて 2枚
その他連絡事項	報告が遅くなり申し訳ありません。 当事業所は就労継続支援A型事業所で16名の障がいのある方を雇用していますが、このウイルスにより多大な影響が出ていますので、別紙の具体的な数値をお示して報告致します。 宜しくお願いします。

新型コロナウイルス感染症を原因とする福祉現場への影響についてのアンケート調査（回答）

施設名	ワークステーションすてっぷ
施設種別	就労継続支援 A型
新型コロナウイルス感染症対策での問題点	1、製造販売事業での対面販売の自粛及び取引先商店の注文減少に伴い売り上げが激減 2、受託事業部門での清掃取引先からの依頼が減少
具体的事例	1、について 当事業所では製造販売事業としてパン及びクッキー等の菓子製造販売をしているが新型コロナウイルス感染症により販売が出来なかった事による収益の減少は下記の通り 3月是对前年比で▲619,263 円 (35%減少) 4月是对前年比で▲862,134 円 (47%減少) 5月是对前年比で▲555,421 円 (34%減少) 計 ▲2,036,818 円 就労収益から賃金を払うため、この3カ月間だけで2名分の雇用が出来なくなる計算になる 2、について 清掃受託先は、緊急事態宣言後から依頼がないため、収益の減少は下記の通り 3月是对前年比で▲148,420 円 (39%減少) 4月是对前年比で▲360,146 円 (98%減少) 5月是对前年比で▲169,591 円 (45%減少) 計 ▲678,157 円 就労収益から賃金を払うため、この3カ月間だけで0.5名分の雇用が出来なくなる計算になる 新型コロナウイルス感染症の影響で就労収入が減少し、利用者の賃金が支払えなくなり2～3名の雇用維持が出来なくなっている。また、利用者が減少することで施設の運営自体も難しくなっている。障がい者雇用を維持するためにも何らかの公的助成を考慮していただきたい

68

宛 先 障がい者福祉研究所 担当：事務局 足高様 TEL： 0438-38-6110 FAX： 0438-38-5610	発 信 令和2年6月5日 〒442-0007 豊川市大崎町下金居場55番地 社会福祉法人 若竹荘 障害福祉サービス(多機能型事業所) あけぼの作業所 担当 井田 TEL： (0533) 86-3601 FAX： (0533) 86-1199 E-mail akebono@wakatakeso.com		
F A X 通 信 連 絡 票 <table border="0" style="width: 100%;"><tr><td style="width: 50%; text-align: center;">F A X 送信枚数</td><td style="width: 50%; text-align: center;">2 枚 (この用紙を含む)</td></tr></table>		F A X 送信枚数	2 枚 (この用紙を含む)
F A X 送信枚数	2 枚 (この用紙を含む)		
通信欄 お世話になっております。先日、お送りいただいた「新型コロナウイルス感染症を 原因とする福祉現場への影響に関するアンケート」につきまして、F A Xにて回答 させていただきます。ご確認よろしくお願い致します。 			

新型コロナウイルス感染拡大、非常事態宣言の発令等により企業からの仕事が減りました（企業にもよるが、5月の仕事が全くなかったところもありました）。そのため、事業所での作業が減り利用者の工賃に影響が出ていきます。それと合わせて、多くの利用者が関わられる作業が減っている傾向にあるため、利用者の一日の生活リズムの組み立ても難しく、不穏になる利用者もいます。社会経済情勢によるため、長期化の可能性があることも心配です。

いわゆる「三密」を防ぐため、日中サービスの利用自粛への協力を各家庭にお願いして約半数の協力を得られました（利用自粛、自宅待機をして頂きました）。利用者数が減ったことで、事業所としての収入も減ってしまいます。自粛期間中は在宅支援をすることで利用扱いとなりましたが、連絡が取れないなど在宅支援が出来ていないところもあります。グループホームの場合は利用扱いとはならないため、収入面に大きく影響してしまいます。

職員には新型コロナウイルス対策についての知識や技術がないこと、国や厚生労働省からの通知に対して具体的にどのように出来るのか、どの時期になると落ち着くのか（出口が見えない）といった様々な面で精神的な負担がとても大きいです。

グループホームで、発熱による自宅（ホームで）待機をした利用者もありました（幸いにもPCR検査は陰性でありましたが）。その間、普段は配置していない日中に職員を配置して対応をしてきたため職員の勤務時間、人件費、新型コロナウイルスへの罹患かもしれないという精神的（ストレス）の負担がありました。

67

ファックス送信票	
送信年月日	令和 2 年 6 月 5 日
受領先	障がい者福祉研究所
件名	【回答】新型コロナウイルス感染症を原因とする福祉現場への影響に関するアンケート
枚数	送信票を含めて 3 枚
送信者	社会福祉法人 からし種の会 障害者支援施設 緑の牧場学園
担当者	廣田典昭
連絡先	Tel;0267-58-2244 fax;0267-58-3996
特記事項 平素より大変お世話になっております。 標記の件、内容ご確認ください。	

知的障がい福祉サービス事業者の立場から

問題点の概要	1. 通所利用者の自宅待機要請は家庭に負担が増す。 2. 新型コロナウイルス感染症罹患時の対応（BCP）作成、シュミレーションに課題が残る 3. マスクやアルコール消毒液、防護服等が手に入らない 4. 緩和に合わせて、感染防止対策が取れるか。新しい生活様式への移行がスムーズに行われるか。
具体的事例	1. 隣接地域に新型コロナウイルス感染症罹患者が出た場合には当法人事業所内利用者の外部事業所の利用を停止、通所利用者の利用停止こととした。おかげさまで、そのような事態にはならず今に至っている。その場合、通所利用されている家庭に大きな負担を強いることとなる。 2. 事業所内で新型コロナウイルス感染症への罹患の疑われる利用者が出た場合、罹患が疑われる利用者に特化した職員体制を編成しなければならず、職員に感染リスクをお願いしなければならない。また、職員の経過観察やその家族に思いを馳せると苦慮する。また、防護服や対策も十分でなく、施設職員に強いるのは無理がある。また、障がい者の特性等で施設内での療養となると、利用者、職員が共倒れになることも想定される。職員が出勤困難な場合には小さな法人では職員体制の確保ができず機能不全になることが考えられる。その場合応援体制等、市区町村が迅速に対応してくれるのか疑問。また応援に入る職員にも感染リスクが伴う。管理者には過大な重責になる。 グループホーム利用者の感染リスクは障害者支援施設に比べて格段に感染リスクが高い。移動制限や行動を抑止できない。また当法人内のグループホームでは世話人さんが高齢であり重症化リスクの回避の観点から、勤務する事業所の異動や自宅待機を要請する場面も想定される。 3. 備蓄品をある程度揃えたいが、品物が手に入りづらい。また、価格も高価になっており、費用負担も増す。 4. 法人内の指針について、解除、緩和して、利用者、職員の皆さんに元の生活様式に徐々に戻したいと考えているが、感染リスクの可能性や安心・安全の観点から戻し辛い。また様々な障害特性を有する利用者にとって新しい生活様式の定着には時間が必要である。加えて、建物の広さや備品等において新しい生活様式に即した基準や備品が必要になる。使い捨てマスクやアルコール消毒剤、手洗

	い用石鹸等の消耗品の継続的な使用、丁寧な手洗いにおける水量の増加も見込まれる。また、定期的な換気は夏期、冬期における燃料費の増加にもつながる。万が一のクラスターには職員への負担や感染リスクに対する手当の支給もあり得る。職員の宿泊場所の手配の必要性も出てくることから、様々な形で費用の増加が見込まれる。
--	---

66

発信元：社会福祉法人 中債社会福祉協会 共立学舎

発信元 FAX 番号：0263-86-1735

FAX送信のご案内

送 付 先： 障がい者福祉研究科	発 信 者： 共立学舎 担当：細置 和彦
担当者	電話番号： 0263-86-2043
FAX 番号： 0438-38-6110	日 付： R2・6・5
電話番号： 0438-38-6110	送付枚数： 3枚
要 件： 新型コロナウイルス感染症アンケート	

? 担当者様

日頃よりお世話になります。

アンケートの回答を送付しますのでよろしくお願いいたします。

障がい者福祉研究所 様

390-1131 長野県松本市今井4822番地1
社会福祉法人中信社会福祉協会
障害者支援施設「共立学舎」

新型コロナウイルス感染症を原因とする福祉現場への影響
に関するアンケートについて（回答）

当施設は、生活介護入所、生活介護通所、ショートステイ及び日中一時事業を行っている事業所です。

新型コロナウイルス感染症への対応の現状と課題について回答します。日頃考えている事項を思いつくまま記載しますので、整わない点もありますがご容赦願います。

1 入所利用者の感染防止の対応と課題

(1) 現状

入所利用者は、外部との接触をできる限り避けるため、帰省及び面会の中止並びに通所利用者との分離（入所利用者のいる建物と通所利用者のいる建物（作業棟を利用）を分離して運営）を実施しています。

(2) 課題

ア 入所利用者は、帰省及び面会ができずストレスが溜まっているように見受けられます。特に、知的障がいの利用者や自閉症スペクトラム障害を持つ利用者の特性で、「理解できない」、「待てない」ことのストレスが高く自傷行為、他害に繋がっています。

イ また、帰省ができないため、生活に不安を感じている保護者も見られます。

ウ 通所利用者と分けて運営することで、対応する支援員も分けて配置するため、人員不足が生じています。入所、通所それぞれについて、少人数の職員での対応となり職員の疲弊が見られます。また、現在は、散歩、音楽で日々の活動を行っていますが、本来計画している日中活動ができない状況です。

2 通所利用者の利用自粛の対応と課題

(1) 現状

3密を避け、感染防止を図るため、通所利用者の家庭に利用の自粛について協力をお願いしました。ただし、家庭での生活が困難な利用者及び当法人が設置するグループホーム利用者については受入れを行っています。

(2) 課題

ア 通所利用者の利用が少ないため、収入減になっています。

イ 臨時的措置で支援費の請求が出来るようになりましたが、代替えの電話等によ

る支援では電話にストレスを感じる家族もあり、収入減を埋めるレベルになっていません。

ウ 利用自粛により家庭で見ているため家族に負担がかかっており、家族へは支援費は出ないのかとの不満もあります。

エ 家庭で見ることが困難な利用者を受け入れています。マンツーマン対応が必要な利用者に対し、職員の手が十分に届かない状況です。実態としては、家庭で見られるレベルの利用者が利用を自粛しており、重度の利用者は利用を継続している傾向です。また、「新型コロナウイルスに罹りたくない」、「施設に協力したい」との理由により、家庭で重度の利用者を見ているケースもあります。

3 新型コロナウイルス感染症対応業務の実施及び課題

(1) 現状

通常の支援等の業務に加え、新型コロナウイルス感染症対応業務（館内消毒の徹底、換気対応、検温、館内清掃（これまでのように外部対応ができないため）、会議等への参加及び資料作成、各種照会への回答等）が増加しています。

(2) 課題

1日の業務のなかで業務が集中する場合に人員不足が生じており、本来の業務である見守りや日中活動に不安を感じるときがあります。

4 施設内で新型コロナウイルス感染症が発症した場合を想定した課題

(1) 現状

新型コロナウイルス感染症が発症した場合について、いくつかのシミュレーションを基に対応フローを検討しています。特に、施設を閉鎖し濃厚接触となる職員又は濃厚接触者が疑われる職員が施設内に留まる場合又は帰宅する場合の業務継続のあり方が留意点になっています。

(2) 課題

ア 職員（看護師を含む。）が施設内に留まり対応する場合は、り患者と他の利用者の支援を行うため数日が限度であると考えます。また、職員の帰宅が許された場合は、さらに職員を投入する必要がありますが、施設の職員だけではどうしても対応できない状況になると考えます。

イ 当施設の看護師は2人で、り患者が発生し、施設内で隔離状態になった場合、患者5人程度を5日間看病するのが限度と考えます。当法人内の他の看護師の応援は各施設の業務対応で難しいことから、例えば、行政、保健所から医師、看護師の派遣が必要ではないかと考えます。

ウ また、施設内でり患者を隔離する場合において、医療用簡易ベッド、布団、食糧、職員の衣類等の物資の投入も必要であると考えます。

エ さらにり患者に対応した職員が家族への感染を避けて帰宅しない場合に、その宿泊先をどのように確保するのも課題と考えます。

65

件名：新型コロナウイルス感染症を原因とする福祉現場への影響に関するアンケート

送付先：障がい者福祉研究所 事務局 足高様

FAX：0438-38-5610

障害福祉サービス事業所（生活介護）の立場から

問題点	1 重度の知的障がい者に感染症の怖さを理解させること事態が、そもそも難しいと思われる。 2 密閉された場所・密集した場所・密接した場面である三密を避けましようとのことであるが、生活介護事業所では、窓やドアを開放して風通しを良くすることはできても、比較的狭い空間に大勢の利用者や職員がおり、離れていては支援も指導もできないことから、開所している限りは難しいと思われる。 3 自ら進んで手洗いをすることはできないが、外出先から帰ってきた時、トイレに行った後、食事の前等には、一緒に手を洗うことはできても、マスクをする習慣がない重度の知的障がい者にマスクの着用は難しいと思われる。 4 実際には、本園では感染者は確認されていないが、仮に感染者が出てしまった場合、休園としてしまうと、大勢の利用者が行き場を失ってしまう。
-----	--

回答者

社会福祉法人上尾市社会福祉協議会
上尾市障害福祉サービス事業所かしの木園

担当：黒須

Fax 048-772-8647

68

【FAX 送信用紙】

送信日時	令和 2年 6月 5日 (金曜日)
送信枚数	B4 枚 A4 2枚 (送り状含む) B5 枚 計 2枚
宛 先	障がい者福祉研究所 担当者 様
発 信 者	〒038-1102 社会福祉法人 黒石市社会福祉協議会 青森県南津軽郡田舎館村堂野前字前川原212-8 就労継続支援B型事業所 せせらぎの園 TEL (0172) 58-3527 FAX (0172) 58-3656 担当 工藤
件 名	新型コロナウイルス感染症を原因とする福祉現場への 影響に関するアンケートについて
摘 要	アンケート回答となります。 よろしくお願いいたします。

【返信先】

障がい者福祉研究所 事務局 足高 様

FAX 0438-38-5610

新型コロナウイルス感染症を原因とする福祉現場への影響に関するアンケートについて

法人名	社会福祉法人黒石市社会福祉協議会
施設名(事業所名)	就労継続支援B型事業所せせらぎの園
記入者氏名	工藤 育子
連絡先(電話番号)	0172-58-3527

問題・課題等 (自由記載)

当事業所は、定員40名の就労継続支援B型事業所で、利用者や支援員の集団感染防止の観点から、衛生用品や防護用品(サージカルマスク、アルコール消毒液、使い捨てエプロン、防護服、シューズカバー、体温計、ゴム手袋等)が必要不可欠です。しかし、サージカルマスクについては、以前に比べて市場価格が上昇しており、また使い捨てエプロンや防護服、ゴム手袋等に関しては、商品の品薄状態が続いているため、必要な数量を確保することが難しい状態となっております。

生産活動においても、新型コロナウイルスの影響により、商品販売が落ち込み、また各関係団体のイベント自粛による外販売上も減少しております。同時に、他企業からの下請け受注も減少し、十分な生産活動収益が確保されず、今後この状態が長期化した場合、利用者の工賃への影響が危惧されます。

さらに、他居住系サービスを利用している利用者が、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、当事業所への通所を一定期間控えるといった事案も発生し、通常の利用時と比較して利用者が減り、収入が減っています。集団感染防止のための対策を図りつつ、経営を安定化するための臨時の対策の検討をお願いしたいと思います。

63

青 雲 FAX送信表

令和 2年 6月 5日

障がい者福祉研究所
事務局 足高 様

【新型コロナウイルス感染症を原因とする福祉現場への影響に関するアンケート】

日頃大変お世話になっております。

標記の件につきまして、FAXを送信させていただきます。

ご確認の程、宜しく願いいたします。

送信表を含めて 3枚送信致しましたので、よろしくお願い致します。

〒059-1304 北海道苫小牧市北栄町3丁目11番地の4

社会福祉法人 緑星の里

障がい者支援施設 青 雲

TEL (0144)58-2552

FAX (0144)58-3144

(担当) 大居

令和2年5月25日

障がい者福祉研究所
事務局 足高様

新型コロナウイルス感染症を原因とする福祉現場への影響に関するアンケート回答

時下、皆様におかれましてはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

新型コロナウイルス感染拡大の収束の見通しが立たない状況において、ご利用者、ご家族、多くの事業所が不安と戦っております。一日も早い収束と皆様のご健康を心よりお祈り申し上げます。

さて、ご依頼のありました標記の件につきまして、回答をさせていただきます。具体的でなく、まとまりのない文面であることをお詫びいたします。

問題点の概要	1、利用者の高ストレス 2、医療機関の受診 3、帰省に関して 4、職員へのケア 5、通所、短期入所
具体的事例	1、当施設は重度の知的障害者支援施設です。利用者の特性は様々ですが、帰省が出来なくなったり外出や行事の縮小、自粛、家族との面会制限もあり、日常生活を送るうえで通常との環境の変化に大きな戸惑いを感じられています。結果、行動障害や新たなこだわりが表出し、支援員の対応が困難な状況にあります。 2、当施設利用者の方が、体調不良やケガなどにより通院せざるを得ない場合に、マスクの着用などの予防行為が困難な方が多く、また、支援員もそばについての移動や見守りを実施しなくてはならない状況にあります。他の患者さんなどへの配慮も当然必要であり、通院対応の難しさがあります。

	3、帰省や外出は原則お断りしていますが、障がい特性により、これまでと同じ日程による帰省が必要な利用者の方がおります。障害特性から、帰省中も決まった店舗へ外出するこだわりがあり、家族も本人のパニックの為、行動を制限することが困難な事情があります。長期間（ある程度の感染収束等）ご家庭で過ごすことも難しく、結果施設へ帰所してきますが、感染してはいないか不安があります。 4、入所施設でコロナウイルスが発生するということは、限りなく外部から持ち込まれる可能性が高いと思われます。家族や業者、通所や帰省もありますが、何より職員が十分に気をつけなくてはなりません。そのため、職員は自分の家族を含め徹底して行動の自粛をし、責任感をもって携わっている仕事に従事しています。しかしながら、長期にわたる自粛と感染への不安感からストレスが高まってくることが予想されます。少しでものんびりとリフレッシュできる機会をと思うところではありますが、人員他日頃の支援体制を考えますと厳しい状況にあのが実態です。 5、感染リスクに不安を感じながらも、通所、短期入所の受け入れは希望者に限り継続しております。入所の家族からは不満を言われることもあります。受け入れを停止することによる家族の負担はかなり大きく、利用者本人も不調となることが予想されます。
--	---

◇-----
社会福祉法人 緑星の里
青雲支援課長 大居康元
TEL : 0144-58-2552
FAX : 0144-58-3144
-----◆

FAX 送信表

宛先		障がい者福祉研究所 代表 足高 慶宜様	
件 名		新型コロナウイルス感染症を原因とするアンケートについて	
送信日		令和 2年 6月 4日	
送信枚数		送信表含めて 2枚	
送信元	住所	〒390-1131 長野県 松本市 今井和田道4900	
	名称	社会福祉法人 中信社会福祉協会 就労継続支援B型事業所 第2共立学舎	
	担当者	上兼 道啓	
	TEL	0263-86-7623	
	FAX	0263-86-8159	

連絡事項

お世話になります。別紙のとおりアンケートを送信しますので
 よろしく願いいたします。

新型コロナウイルス感染症のアンケートについて

第2 共立学舎

- 新型コロナウイルス予防のため、他施設への清掃作業に行くことが出来ず、収入減となり、工賃も減となっている。
- 家庭でネグレクトを受けている利用者の健康管理について家庭で検温が出来ず、体調不良時連絡取れない可能性があり行政で対応できるような仕組みを考えてほしい。
- マスクや、アルコールの消毒液が手に入らず緊急時は、国で購入し計画的に販売し、福祉、医療機関に行くよう調整してほしい。
- アンケート調査ばかりでなく、もう少し実際の現場を視察する等の対応をしてほしい。(類似したアンケートが多く、事務的な事に時間を取られているため、業務に支障が出ている。)

以上

6/

2020.6.3

障がい者福祉研究所
代表 足高 慶宣様

社会福祉法人清光会
理事長 山田泰之

Tel 046-857-1367

新型コロナウイルス感染症が原因で、福祉現場にて生じている問題について

利用者の立場として

- ・感染拡大防止の観点から事業所の利用自粛がうたわれ、自宅で過ごす機会が多くなった結果、虐待が疑われるケースの場合、発見が遅れてしまう事が懸念される。
- ・コロナウイルスに感染していても、味覚の異常等上手く伝えることができず、感染を確認するまでに時間を要してしまう。
- ・利用者本人が発熱し、PCR 検査を要望したが、なかなか検査が実施されず、そのうち家族全員に発熱などの症状が生じ、利用者自身を介護するものがいなくなり、ヘルパー利用をしたが、ヘルパー自身も感染の恐怖の中、支援せざるを得なかった。
- ・児童に関しては何よりも、学校がいち早く休校、教員も自宅待機になり子どもたちや家族のことは全く考えられていないということ。
- ・障害のある子どもたちの居場所を放課後等デイサービスや学童のみに求めることは、感染防止という面において不合理であり、これまで「連携」を念頭において積み重ねてきた教育と福祉の現場での関係になんとか違和感を残したように感じる。それぞれの役割が必ずあるので、そこを両輪で担っていく必要があるのではないか。

事業者の立場として

- ・国は日中活動系サービスについては、電話で安否確認をするなどを行うことにより、報酬の算定が可能とする措置を取っているが、短期入所や移動支援・日中一時支援などについては、利用自粛により利用キャンセルが相次ぎ、経営的に打撃を受けている。

- ・感染予防のための衛生品（マスクやアルコール）の入手が困難。衛生用品等の確保ができない中での運営。市場には出回りつつあるが、以前と比較し値段も高く、経費を圧迫している。PCR 検査を受けた入所者がいた時、陰性の結果が2回出るまでの間、入所者を隔離しなければならず、防護服やフェイスシールド等の入手が出来ず、「陽性だった場合、感染してしまうのではないかと不安であった。
- ・入所施設の場合、短期入所や日中一時等外部の利用者を受け入れることで、マスクなどが出来ない利用者も多く、感染のリスクが高まり不安が生じる。
- ・国からは、地域ごとに先生が放課後等デイサービスに入る等の対応を可能としていますが、それがしっかり行政や学校に伝わっていない。
- ・感染者が出た場合の対応予測が不十分だと感じる。
- ・このような緊急事態の際に事業所の運営が守られ安心して支援の提供ができるような仕組みが必要だと感じる。現場の努力のみでどうにかなることではない。

新型コロナウイルス感染症を原因とする福祉現場への影響に関するアンケート(回答)

問題点の概要	1 毎月の保護者会開催自粛 2 障害者の方たちが、面会・帰宅・外出自粛 3 毎年大人数が集まる夏祭り、そうめん流し、日帰り旅行、外食行事開催が難しい。 4 大学・短大生の実習の受け入れが難しい。 5 作品づくりしているが、対面販売ができない 6 アルコールの備蓄がない 7 防護服、マスク、使い捨て手袋、ゴーグルの備蓄が不安 8 コロナが発症した場合、専門的に助けてくれるのか心配 9 コロナが発症した場合、危険手当的な助成はあるのだろうか。
具体的事例	1 会を開催すると千葉県内、東京都内から家族がたくさん来園するので、3密のこと、多方面から公共交通機関を利用してくることから感染拡大のことを考えると心配があり開催できない。 家族の方たちも施設の中に入出入りするのには心配の様子。 2 施設の中でも施設入所の方と通所している方の接触は避けるべく接触しないようにしているので、家族のところへ帰宅することや施設に面会に来ること、外出等は自粛して頂いている。 自由に施設の中でも動けない。制限の中での生活をしている。 3 夏祭りは、体育館と中庭を利用し行っていることから、密集すること、濃厚接触、いろいろなものを食べる、そうめん流しも外で行うが、密集して流れるそうめんをみんなで一緒に食べる、日帰り旅行は、大型バス3台で出かけることや人の多く集まる場所に行くので、不安が多いので、中止せざるを得ない。 4 今まで実習生を受け入れて、施設の中での生活や支援について体験していただいたり、見学も多くの方に来ていただいていたが、いろいろな学校から来ること、電車・バスを利用していること等いろいろな方と接触があるなどしていることから、施設内に入って障害者と接触することが不安があるため、中止せざるを得ない。 今まで、実習生を受け入れ採用につなげていたが、採用にも不安が出ている。 5 たくさんの方と接触しないようにしていることから、外出することをしていないので、収入減となっている。

	6 電解次亜水で毎日消毒をしている。アルコールは手に入らない。 7 いろいろなものが施設なので大量に手に入らない状況と値段が高く施設の収入も減っているので、難しい。防護服も手に入らないので、代用できるかと思い雨合羽を100着くらい購入した。ゴーグルはなかなか手に入らない。 8 施設の中で発症者が出た場合、必ず助けてもらえるのか心配がある。職員も発症したりすると人材不足になるため。 9 発症者が出た場合、命にかかわることなので、手当を考えているが、その場合の助成金のようなものは考えてほしいところです。いろいろなことが未知の世界で不安ばかり。
--	--

SP

FAX 送付状

送信日 : 令和 2 年 6 月 5 日

送信枚数 : 2 枚 (送付状を含む)

送 付 先

障がい者福祉研究所

代表 足高 慶宣 様

TEL : 0438-38-6110

FAX : 0438-38-5610

差 出 人

社会福祉法人藤の実会 田端 昭彦

TEL : 04-2992-5096

FAX : 04-2992-5095

☐ 至急!☒ ご確認ください☐ 折り返しご連絡ください

平素より格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、大変お忙しいところ誠に申し訳ございませんが、問題点の回答の件、ご確認をしていただけますよう、お願い申し上げます。

今後ともよろしくお願い申し上げます。

令和2年6月2日

障がい者福祉研究所
代表 足高 慶宣 様

社会福祉法人 藤の実会
事務局長 田端 昭彦

新型コロナウイルス感染症を原因とする福祉現場への影響に関する アンケート（回答）

1. 藤の実会での対応と直面した問題点

対 応

他法人より新型コロナウイルス発症の利用者がでたと報告あり。当法人グループホーム利用者が発症者と同じ通所施設に通っていたため、情報収集と、利用者の自宅帰省のお願いと、グループホーム内のゾーニング。職員の担当固定。消毒。

1週間後、当法人グループホーム利用者も陽性となり、当法人内の関係通所事業所は、休所。利用者は自宅待機。毎日、各家庭に電話し健康観察と相談実施。職員も自宅待機であるが数名は事業所内消毒と電話対応で勤務。

通所事業所の休所期間終了後は、送迎バスや事業所内の密を軽減するため、利用者に輪番制での利用の協力要請。

当法人グループホーム利用者陽性の方が、陰性で解除になるまで約50日要した。

問題点

- ・他法人、保健所、市町村などと、初期対応の情報共有や収集が出来なかった。情報がないと水際対策が行えなかった。理由は、個人情報やプライバシー保護の問題。
- ・症状が出ないとPCR検査を実施してもらえない。濃厚接触調査対象者となった疑わしい方で陽性か陰性か、はっきりしない状態でグループホームや入所施設などの集団生活をしている方の静養は、感染拡大リスクの観点からPCR検査を実施してもらいたい。検査体制の強化を願う。
- ・集団（多人数）の施設であるグループホームや入所施設など、ゾーニングが難しい。グループホームについては、個室になっているので待機してもらえが、知的障害者の特性上、共有部分などに出てきてしまい陽性者と陰性者が密になること有り。また、施設は余分な部屋など確保していないため、隔離やゾーニングができず、衛生面が保てなくなる。
入所施設においても2人部屋などがあり、個室にする事が出来ない。また、ゾーニングをビニールシートなどで仕切りを設けると、消防設備（スプリンクラーや感知器）に支障が出てしまう
- ・衛生備品の調達ができない。（特にアルコール、医療用マスク、ゴーグル、ガウン）
- ・「感染症の患者は入院させなければならない」と法律ではなっているが、知的障害の方や軽度の陽性者は入院や宿泊療養等させてもらえず、グループホームでの静養となる。在宅の場合も同様で、保護者からは高齢の保護者では命の危険を伴うのでどうにかならないのかと相談があった。
- ・利用者や職員の感染拡大を最小限にするため、陽性者支援の担当職員を固定。
陽性者を支援する職員は、自分自身に感染リスクがあり、また、通常のとおり家庭から通うため家族への感染リスクもあるため、単身での宿泊施設が必要である。利用者、職員用のコンテナハウスなど検討したが建ぺい率や建築許可、費用など短期間で行えない問題があった。
- ・衛生管理については保健所や病院の指導があったが、医療関係者のように知識がなく、又、衛生用品も乏しい中、福祉施設職員は陽性者を支援するのに不安が大きく、人材の確保・定着も難しい。医療、看護の協力体制や職員の人材確保・定着するための支援もいただきたいのが現状である。

新型コロナウイルス感染症を原因とする福祉現場への
影響に関するアンケート

- 新型コロナウイルスの感染予防の為に、価格が高騰したマスクを大量に購入したことで、経済面の負担が大きい。
- 新型コロナウイルスの感染予防の為に、通所事業や短期入所事業において、他の施設を併用して利用している方に対して、1事業所のみの利用に絞って頂くように通達し、利用を制限しました。その為、利用率が低下し経営面で負担が出た。
- 新型コロナウイルスの感染が疑われる方を隔離するスペースを確保するために、5、6月は短期入所事業の利用制限を設け、常に2部屋の空きが出るようにしました。その為、利用率が低下し経営面での負担が増加している。
- 施設の周辺地域において、「当施設でコロナ感染者が出ている」との噂が広がり。風評被害が出ました。
- 外部業者の入館制限、利用者様への面会制限、外出制限、等によって利用者様のストレスが溜まっている。
- 毎年開催している地域貢献を兼ねた事業所独自のイベントを中止した事で、利用者様や地域住民の楽しみが無くなりました。
- 実態調査が行えない為、新規利用者様の受入れに支障が出た。
- 利用者様の健康診断が延期になった事で、健康状態のチェックが出来なかった。
- 感染予防の為に、通所や短期入所の利用を控える利用者様がいたことで、経営面で負担が増加した。

社会福祉法人 優心会

障害者支援施設 シンフォニーあわの

〒328-0212 栃木県鹿沼市下永野 2 3 6 - 5

TEL 0289-84-8004 FAX 0289-84-8013

E-mail manager@yu-shinkai.com

シンフォニーあわの 施設長 毛塚 寛

FAX 088-689-1778

理事長 手塚 仁

67

新型コロナウイルス感染症を原因とする福祉現場への

影響に関するアンケートについて

物流の停滞 一部生活用品が事業所の営業時間短縮等により、発注や配達の影響がみられた。

一部の消毒液（手洗い石鹸）については、欠品状態が長期に続いた。

医療機関ではないため、専門的な感染予防資機材も有しておらず、購入補助としての補助金も、注文受付を停止しているため、活用できない。

行事の中止 感染症予防のため、通年開催の行事や保護者会を中止せざるを得なくなり、職員だけでなく利用者・保護者ともに自粛。

週末帰省も中止し、外出も制限し、外部接触を極力控えた。

利用者の方には、丁寧に説明するが、充分理解できていない方もいるため不安定行動を起こす人やストレスを強く感じている

情報の不足 幸いにも感染が広がっていない県ではあるが、情報の不足、国の各種通知の分かりづらさを痛感している。

対応方法についても、明確な物が少ない為混乱を生じさせ、現場も統一性に欠けた。

初期症状について、無症状から発熱、下痢など風邪に似た症状とか、発熱し 4 日間は自宅で療養するようにといったことだけで、基礎疾患を有する利用者や自分の体調について表現できない方の支援に苦勞している。

疑似症状を発症した方がいたが、安全を期して通所事業利用者には、保護者に説明し、休んでもらった。その間の様子伺や施設内の感染対策に労を費やした。

労働力の低下 幼児期の子供をもつ職員は、休校や児童の預け場所がなくなり、休まなくてはならない状況となり、労働力の低下となった。

感染者が出た場合、施設での生活の中で、医師や看護師の派遣、

保健所の指導がはいることとなると思いますが、職員及びその家族のことも考えて、終日対応することは困難ではないか。

千葉の施設のように、個室化されていても、移動することができなったり、建物構造や土地面積から個室化が困難な施設もあり、急場しのぎでの補助金ではなく、施設整備補助金（建替を主とした）を積極的に活用できるようにしていただきたい。

66

FAX送信票

令和2年6月2日

障がい者福祉研究所

事務局 足高 様

FAX:0438-38-5610

【発信者】

下関市こども発達センター

はたぶ園

〒751-0827 山口県下関市幡生本町26番12号

TEL 083(233)9850 FAX083(233)9851

担当 白根

本誌を含め A4 判を 3 枚送付いたします。

件名

新型コロナウイルス感染症を原因とする福祉現場への影響に関するアンケート回答について

MEMO

平素より、大変お世話になっています。

標記の件についてFAXしますの、ご査収願います。

以上

66

令和2年6月2日

障がい者福祉研究所

代表 足高 康 宜 様

社会福祉法人

下関社会福祉事業団

新型コロナウイルス感染症を原因とする
福祉現場への影響に関するアンケート回答

1 事業所の概要

福祉型児童発達支援センター

はたぶ園：利用定員 30 名（4 クラス）

年少児から年長までのお子さんが利用

障害種別は肢体不自由児、発達障害、知的障害が主である

職員構成（40 名）は施設長、保育士、児童指導員、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、臨床心理士、栄養士、運転手、看護師が療育に当たっている。

2 当事業所における対応の概要

① 2020 年 1 月～2 月

一般的な感染症予防対策を実施しながら通常通り業務を継続していた。

② 2020 年 3 月～4 月 27 日

市内の小中学校については 3 月 3 日から休校措置が執られたが、当施設は市役所の通知に従って感染症予防対策を徹底しながら通常通り業務を継続することとしたが、三密状況を招く一部の行事（卒園式・入園式・交流会等）を一部変更または中止せざるを得なかった。

③ 2020 年 4 月 28 日～5 月 15 日

市役所の通知に従って利用者へ利用自粛を依頼し、利用自粛が困難な児童に対し感染症予防対策を徹底しながら支援を継続した。

④ 2020 年 5 月 18 日～

市役所の通知に従って利用自粛措置を解除し、感染症予防対策を徹底しながら業務を継続してきた。

※①～④を通じて職員はほぼ通常通り出勤してきた。

3 業務実施上の課題

① 感染予防策に関すること

2月以降マスクや消毒用薬剤の調達が困難となり、在庫補充ができなくなった。マスクは価格が高騰していた中で発注したものの納入まで1か月以上を要したため、納入できるまで職員個人の物を業務でも使用するよう依頼したほか、法人内で手作りされたマスクや好意により寄付されたマスク等を活用してきた。消毒用薬剤についてもアルコール系のものは調達困難だったため、家庭用塩素系のもので対応した。

② 職員の負担

障害児への直接支援という業務の特性上、利用児とは常に接触や至近距離での支援が避けられず、三密状態に近い感染リスクが高い状態での業務で、肉体的にも精神的にもストレスがたまる状況が続いた。自身の子どもの見守りのため休業する職員は少なかったが、保育所や児童クラブ等での感染を常に気にしながらの業務でストレスが高まっていた。

③ 利用者への影響

大きな節目となる卒園式や入園式なども変則的な形でしか実施できず、利用者に複雑な思いをさせざるを得なかった。

また業務は出来るだけ通常の形で実施したかったが、保護者参加型のは中止するものもあったり、三密状況を回避するため内容を変更したプログラムもあったりして、療育の質の確保の面で影響があった。

これらに加え、自粛期間中は利用児も保護者も生活リズムが乱れ、双方にストレスがたまっていたようだった。特に利用児については、障害の特性から気持ちの切り換えが難しい子が多く、保護者にも利用児にも大きなストレスとなっていたようだった。

以上

社会福祉法人 山口県社会福祉事業団
障害者支援施設（対象：知的障害者）

問題点の概要

- 1 面会・外出・外泊を自粛していることから、ストレスを感じている利用者がいる。
- 2 感染者が発生した場合の対応について

具体的事例

- 1 面会・外出・外泊を自粛していただいているため、利用者がストレスを感じ、利用者間のトラブルや他害行為等、落ち着いて生活できない利用者の方がおられる。
- 2 多床室（3人～4人部屋）であるため、感染者が発生した場合の「隔離」が非常に困難になることが予測される。（一気に感染者が増える）
また、入院が困難な方が複数おられるので、感染者が発生した場合に、医療機関から受け入れに応じてもらえるかについても大きな不安がある。

〒361-0011

埼玉県行田市荒木 1735

TEL:048-557-2873 fax:048-557-2876

社会福祉法人 聖徳会
見沼園

67

FAX

送付先: 障がい者福祉研究所

事務局 足高様

発信元: 社会福祉法人 聖徳会 見沼園

篠崎 真広

FAX 番号: 0438-38-5610

送付枚数: 2 枚(本紙含む)

電話番号: 0438-38-6110

日付: 2020 年 6 月 3 日

件名: 新型コロナウイルス感染症を原因とする福祉現場への影響に関するアンケートの件

☐ 至急!☐ ご参考まで☒ ご確認ください☐ ご返信ください☐ ご回覧ください

新型コロナウイルス感染症を原因とする福祉現場への影響に関するアンケート

問題点の概要	障害支援区分認定調査は対面もしくは電話での聴き取りのみでビデオ会議等 ICT 活用がなされていません。感染防止対策をしつつ効率的に必要な手続きを進めるためにも、行政が主導し ICT の活用を加速すべきと考えます。
具体的事例	感染防止対策としてテレワークやビデオ会議の活用が推奨され、入所者とご家族の面会にビデオ会議を導入した施設が数多くあると聞きます。当法人でも感染拡大防止の観点から ICT を活用し、できる限り対策を講じています。このような中、行政からは障害支援区分認定調査等の聴き取りは直接対面で行うか電話かの二択で、ビデオ会議で行うといった話はありません。 また、緊急事態宣言が解除された現在も、施設内への立ち入りを制限している事業所はあります。ご利用者の様子確認やサービス担当者会議などにもビデオ会議を活用することで、面会ができない場合も連絡調整がスムーズに行えます。二波、第三波に備え、行政が積極的に ICT を活用する姿勢をとることで、福祉現場でも対応が加速し、感染拡大防止が図れると考えます。

回答者：社会福祉法人聖徳会 篠崎真広（埼玉県）

令和2年 6月4日

(53)

<宛 先>

障がい者福祉研究所事務局 足高 様

送信票を含めて2枚送りますので宜しくお願いします。

----- <用 件> -----

拝啓 時下ますます御清祥のこととお喜び申しあげます。

ご依頼のありました「新型コロナウイルス感染症を原因とする福祉現場への
影響に関するアンケート」に関する回答書を送付いたしますのでご確認ください。
不備、ご質問等ありましたらお知らせ下さい。

----- <問合せ先> -----

〒939-2404

富山県婦負郡八尾町上ヶ島313

社会福祉法人 白皇山保護園

障害者支援施設 野 積 園

TEL 076-455-3535

FAX 076-455-3536

発信者

清水

新型コロナウイルス感染症が原因で、福祉現場にて生じている問題等

障害者支援施設 野積園

問題点の概要	1. 帰省・面会・外出が制限されている。 2. 施設でクラスターが発生した関係で、施設利用者を警戒され、病院受診が難しい。 3. 通所の利用者さんが複数の事業所を利用されていることで、感染のリスクが高く、把握が難しい。 4. 対策で必要な物品の確保が困難。 5. 複数職員の急な欠勤で現場職員が、勤務延長等に対応した。
具体的事例	1. 利用者さんが、状況の理解が難しく不穏に繋がった。(泣く怒る等) 2. 予約ありで受診するも病院玄関まで行ったが、薬のみにして欲しいと言われで受診できずに帰園するケースがあった。行き帰りの時間が無駄になった。かかり控えがあった。 3. 当園グループの通所事業所の利用者さんが、他事業所でコロナウイルスの陽性となった利用者さんと、同じ事業所でショートステイを利用したことが判明。濃厚接触者と診断されPCR検査の対象となった。濃厚接触者と同日利用から、連絡がくるまで1週間以上経過していた為、その間ずっと通所利用され、当園グループ通所事業所の利用者と職員全員が濃厚接触であった。判明後、直ぐに、施設、送迎車の消毒をし、書面でその旨をご家族にお知らせし閉鎖する。幸い、検査が陰性であり、感染者が出なかったが、クラスター発生になりかねなかった。 4. 不足での欠品が多く、また、かなり高騰していた。もしもに揃える必要があり方々をあたり、最低限の準備をした。また、状況によるため準備数の目安がわからなかった 5. 県内の病院で発生したクラスターの関係で、4名の職員が念の為自宅待機となり、同時期に3名が欠勤となった。その為、職員不足のまま支援した。接触としては速いルートだが、もし自分が感染していて、体力のない利用者さんに移したら、また、現場に迷惑をかけては…と心配でとても勤務できないと自主的に休まれるケースがあった。

52

令和2年6月4日

障がい者福祉研究所

代表 足高 慶宣 様

社会福祉法人中信社会福祉協会

事務局長 征矢深志

新型コロナウイルス感染症を原因とする
福祉現場への影響に関するアンケートについて（回答）

梅雨の候、貴職におかれましては益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。

日頃、当法人の事業運営にご理解とご協力を賜り、深く感謝申し上げます。

さて、令和2年5月に照会のありました標記の件につきまして、当法人の知的障がい者
支援施設の現場の状況について下記のとおり回答いたします。

よろしくお願い申し上げます。

記

- 1 入所利用者と通所や短期入所の利用者との接点を減らす対応をしている。そのため、
日中活動の場所が制限されている。
- 2 短期入所について、利用者に動き（出入り）を最小限にするため、利用を休止するか、
または、1カ月以上連続して入所するかを選択をしている。
また、入所利用者との接触を避けるために、短期入所の部屋の確保とそれに対する職
員の確保に苦慮している。
- 3 入所利用者は、万一コロナウイルスが施設内で発生した場合、個室が少ないため、同
室者からの感染が懸念される。コロナウイルスに限らず感染症を防止するために、居室
の個室化や隔離が出来る静養室の整備が課題となっている。

社会福祉法人中信社会福祉協会

事務局長 征矢 深志

〒390-1702 松本市梓川梓 2288 番地 3

電話 0263-78-7203 FAX 0263-78-7204

(51)

令和 2 年 6 月 4 日
送信枚数: 2 枚 (表紙含む)

FAX 送信表

送信元: (箱) 佐世保市手をつなぐ育成会
本部
担当: 佐藤
電話: 0956-56-3858
FAX: 0956-26-2071

TO: 障がい者福祉研究所

足高慶宣 様

TEL:

FAX:

平素よりご高配賜り、誠にありがとうございます。
下記書類をご送付させていただきますので、ご査収くださいますよう
お願い申し上げます。

☐ 至急 ☐ ご参考まで ☒ ご確認ください ☐ ご返信ください ☐ ご回覧ください

■ 送付書類	■ 枚数
・ 新型コロナウイルス感染症を原因とする福祉現場への影響に関するアンケート	2 枚
■ 連絡事項 ご確認よろしく申し上げます。	

問題点の概要

1、事業の存続の危機

- ・当法人は主に知的の重度、最重度の方が通所する生活介護と就労継続支援B型、住まいの場としてのグループホームを経営している。今、3蜜を避けることを声高く言われていますが、手を携え、体に触れながらの支援を余儀なくされているなかで、これを実行することはとても難しい。

新型コロナウイルスに感染した方はまだいないが、感染者が一人でも出ると、あっという間に感染が広がることが想像される。おそらくしばらく閉鎖せざるをえないと考えられる。各家庭に職員を送ることはとても不可能であり、収入はなくなり、職員の給与を払うこともできなくなる。法人の存続が危ぶまれる。収入の担保が必要。

- ・しばらく、閉鎖になればその間通所の場合は自宅で待機となるが、ご家族の負担は計り知れない。
- ・ある程度の内部留保は認め、社会福祉充実残高の計算の見直しが必要。

2、感染した障害者の支援は医師・看護師だけではできない。

- ・病気の治療は医師にしかできないが、入院・治療が、困難を極めるのは勿論、他、食事、排せつ等、日頃より関わり信頼がある支援員等がいなければ、困難を極める。行動障害のある方などは特に大変である

難しいからといって障害を理由に治療を後回しにしないように切はお願いします。

早く新型コロナウイルスの治療薬が出来ますように！

3、グループホームで感染者が出たらどうするのか。

- ・ご両親もすでに他界され、身寄りがない方も増えてきました。従って避難する場所がない人が増えてきています。当法人で守るしかありません。日頃より、多目的に利用ができる棟を備えておき、緊急事態には隔離棟として、そこで治療、静養にあたる必要もあるのではないかと思います。
- 整備するための補助金を是非お願い致します。

4、感染予防に徹底して努める

- ・健康、体力的に自信がない人が多いので感染しないように全力で予防に徹しています。マスク、消毒液の購入に限らず、除菌専用加湿器等機械の購入にも、多額の出費がかさみ経営的にも大変である。助成金が是非必要と思う。

(50)

令和2年6月4日

障がい者福祉研究所 御中
代表 足高 慶宣 殿

〒210-0837

川崎市川崎区渡田2-3-5

一般社団法人みんなであくしゅ

日中一時支援あくしゅ

伊東 悦子

電話044-328-1948

ご 送 付 案 内 Fax 044-328-1948

拝啓

時下益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。

早速ではございますが、この度送付いただきましたアンケートの回答を

本日下記の通りご送付いたしますのでご査収の程よろしくお願い申し上げます。

また、このアンケート内容を調査・回答するにあたり、前置きにてお伝えいたしたく、
失礼ながら記させていただきます。

敬具

緊急事態宣言と同時に介護や障がい者の支援の壁をなくしていただけたならどれだけの支援を増やせた
だろうか。

行動障害を持つ方の自宅から自宅の支援（行動援護）。行動障害を持たない移動支援においては初めか
終わりに自宅があれば良いとなっていますが、行動障害を持っている方の家族が仕事（看護師・医師・
介護士等）で今まで以上に出勤をしなければならない時、施設から自宅までのお迎えができなくなり、
大変苦労されている。もし行動援護で施設から自宅の支援が可能だったら。行動援護や重度訪問、
放課後デイサービス、日中一時などの受給者証をお持ちの支援内容で今までできなかった支援も受ける
ことができたならどれだけ心痛を減らすことが出来たのだろうかと考えます。

上記の内容は別紙に記載されておりませんが、必要な支援を必要な人へ柔軟な対策を希望いたします。

（例）○行動援護で施設から自宅の支援が可能になったらどれだけの人が助かっただろうか。

○日中一時支援で職員が自宅で利用者様を少しの時間支援し、その間に保護者様が買い物に
行けたらどれだけ助かっただろうか。

○放課後デイサービスの利用者様のご兄弟（18歳以上）も一緒に短い時間ではあるがお預かり
できたらどれだけ助かっただろうか。

○ショートステイのみの認定事業所であっても、空きのある時間であれば短い時間での日中一時
預かりが出来たらどれだけの人が助かっただろうか。

記

本紙

. . . 1部

障がい者福祉研究所アンケートの回答

. . . 2部

令和2年6月4日

P1

障がい者福祉研究所 御中
代表 足高 慶宣 殿

日中一時預かり みんなであくしゅ
専務理事 伊東 悦子

新型コロナウイルス感染症を原因とする福祉現場への影響に関するアンケート回答

①保護者様から

問題点の概要	具体的事例
1 生活リズムの変化による本人（障がい者）の変化と家族の疲労	1 通所施設が新型コロナウイルス対策で週に2～3日に分担して通うことになった。通えないことを考えるとまだましな方だとは思いますが、本人の毎日の生活リズムが崩れてしまい家の中で（刺激の無い空間）過ごしたいと強く希望するように、親も仕事に行かなければならず通所するまでがとにかく大変で疲れ果て、休みの日には不安定になり家が壊れていく様に疲れてしまった。
2 自粛により今までスムーズに出来たことが出来ないこだわりを生んでしまった	2 通所施設から自粛のおねがいの手紙をもらい、家族で頑張ろうと24時間体制で分担してみてきたが、本人にしたらなぜ外に出れないのか理解できず家族にやつあたりをする日々でどんなに頑張っても2週間が限界だった。施設と相談して通所できるようになったが、お迎えの車に乗る事にも拒否が出て路上の自転車を総倒しにしたり地面に寝転んで動かなくなったりと頑なな態度に、以前の状態になるまでに相当の時間がかかってしまうと悩んでいる。
3 本人（障がい者）の社会性欠乏の不安と家族の雇用が無くなってしまふ不安	3 もともと家が落ち着いて好きだったため、通所施設が自粛を勧めた事が本人にとっては幸いしもうずっと家にいると言って親の側を離れない。自粛中1か月の約束で仕事を休ませていただいたが、自粛が解けて通所ができるようになって断じて行かないと言う。このままでは今以上に子供の社会性が無くなってしまふのではと不安と共に親もこのままではくびになって子供の兄弟の学費が払えなくなってしまい家族の日常が崩れてしまふ事に恐怖を感じている。
4 自粛によるストレスから来る新たな心の病気	4 自粛を素直に受け止めてくれ、家族も皆で手伝ってくれたのでこのまま穏やかに自粛期間を超えられると思っていた矢先に子供（障がい者）の顔面が引きつり目をしきりにパチパチするようになった。あまりに頻繁に異常が起こるため本当でしたら病院には近づきたくなかったのですが近所のクリニックに電話で人のいない時間帯を教えていただいて行った所、強いストレスが溜まって症状が出てしまったと考えられるとのこと。気分転換にドライブに連れて行ったりしているがなかなか治らない。
5 自粛中の他人からの誹謗	5 自粛していても外の空気を吸わないとパニックをおこしてしまうため、短い時間で散歩に出ると、なんで外に出すんだと罵声を浴びせられてしまう。その方だって外に出ているのにストレスのはけ口にされている。

新型コロナウイルス感染症を原因とする福祉現場への影響に関するアンケート回答

P2

①日中一時預かりの立場から

問題点の概要	具体的事例
1 職員の人員限度とマイナス収益	1 自粛を各ご家庭にお願いして体調確認をさせていただきながらどうしても親御さんが見ることが出来ない利用者様を密集にならないようにマンツーマンにて活動していますが、職員の人員の限度があり、収益は見込めない状態です。
2 状況の変化に対応が難しい方へ多種多様な認識と寄り添いの難しさ	2 わくわく（学童）や放課後デイサービス、日中一時預かりなど、学校が休みなのに福祉サービスはやってくださいとの指示が出たときはびっくりしました。どれも幅広い年齢層が集まる施設だからです。ましてや子供は無意識に密集してしまいます。学校の方が距離を置くや時間をずらす等することで安全ではないかと矛盾を感じました。ましてや障がい者で知的障害のある方では理解していただくのに何度も何度もお知らせして、それでも理解できない方が大勢いらっしゃるの、自分の意思が通りにくい環境になりやすい事、日常ががらりと変わり、変化についていけずパニックになる方、無気力になってしまわれる方と様々で個々の日常に寄り添うことが特に苦労しました。
3 密着は避けられない	3 日中一時は基本団体行動をとることが多い事、障がいを持たれている方を支援するときに手をつなぐ必要がある方も少なくなく、よだれを拭いたり、トイレ介助など密着が多い。また、外出自粛のため、室内に密集しやすい環境であることから、行政より3密を避ける項目のお手紙がきても最初は無理だと思いました。それでも、利用者様も職員もだれも感染しないようにできる限り手探りで行うしか方法は無く、職員は自分が媒体に決まらなくてははいけないと思い、利用者様からも移らない努力、いつ誰に移されるかもしれない恐怖がいつもあります。（人が悪いわけではない）
4 むやみに職員を増やせない。	4 職員が高熱などの風邪に似た症状が出た場合はすぐに休んでいただくが、代わりの人を募集することができない。弊社のように小さな事業所では継続して努めていただくことは不可能であり、いつ誰が感染してもおかしくないと認識している中で外部から2週間だけ雇用することは避けた方が良くと認識したため、限られた職員でやりくりしなくてはならなかった。結果として一人風邪の症状が出ると、コロナ感染症でないとしても、もしかしてと常に考えながら接触していない職員がその分を補いながら支援を行う必要があった。（利用者様への説明で自粛を更にお願ひすることになった）

49

事 務 連 絡
令和2年 6月 2日

障がい者福祉研究所
事務局 足高 慶宣様

新型コロナウイルス感染症を原因とする福祉現場への
影響に関するアンケートについて

平素は、大変お世話になっております。

さて、新型コロナウイルス感染症を原因とする福祉現場への影響に関するアンケートについて、別紙のとおり送付いたしますのでご確認ほどよろしくお願いいたします。

草の実学園 担当 加藤
電話 088-689-1381

○新型コロナウイルス感染症が原因となり生じている問題点

利用者にとって課題

- ・マスクが着用できない人もいる。
- ・キープディスタンスはしたいが介助度の高い利用者が多いのでできない。
- ・手洗いやうがいができない利用者が多数いる。
- ・帰省できないことで利用者が情緒不安定になる。
- ・地域での感染症のリスクが懸念されると在宅の方の受入れがしにくくなる。

職員にとっての課題

- ・エプロン、キャップ、マスクが不足 並びに 購入する経済的負担が大きい。
- ・夏場でのマスクの着用
- ・人員確保
- ・職員の心理的な負担
- ・普段の業務の上で、新型コロナウイルス感染症を意識した対応を毎日しなければならず業務の負担がこれまで以上に増えている。
- ・濃厚接触者が出た場合、職員も自宅に戻れなくなる。その場合の宿泊場所の確保。
- ・また、宿泊場所の生活になった場合 外食が増え、飲食費が増える。
- ・コロナ差別を受ける。
- ・いつまで仕事を続けなければならないのか不安がつのる。
- ・その際の手当や給与等をどうなるのか。といった声がある。

(48)

ファクシミリ送信票

令和2年6月2日

障がい者福祉研究所 事務局 足高 様	発信者 佐渡福祉会 岩の平園 氏 名 園長 菊池敬一
発信枚数：本紙共2枚 日頃より大変お世話になっております。 新型コロナウイルス感染症を原因とする福祉現場への影響に関するアンケートについて、別紙のとおり回答いたします。 今後ともよろしく願いいたします。	

社会福祉法人 佐渡福祉会 岩の平園
〒952-0108 新潟県佐渡市上新穂 1256 番地
Tel 0259-22-3880
Fax 0259-22-3881

新型コロナウイルス感染症を原因とする福祉現場への影響に関するアンケート

※主に障害者入所施設の場合について記入しています。

問題点の概要	1. 利用者へのサービスの低下 2. 感染拡大防止のための経費、労力の増 3. 個室化の課題 4. 発生時の体制づくりの課題
具体的事例	1 について ・ 外泊や外出の自粛、保護者参加の行事などの中止。 ・ 日々と違う生活環境によってストレスが増大している利用者がある。 ・ 短期入所の緊急性のある者を除くある程度の利用制限。 2 について ・ マスクや消毒などの防護用品、発生時のための防護用品や使い捨て容器などの確保に係る経費の負担増。 ・ 館内消毒や来園者への対応など、職員による感染拡大防止対応の労力が増えたままである。 3 について ・ 全室個室が望まれるが、経費だけでなく敷地の確保も難しい。 4 について ・ 介護施設では、濃厚な介助場面が多く、利用者同士でも接触があるが把握できないため、発生時は濃厚接触者かどうかの判断が難しい。 ・ 一人では入院等の難しい利用者が多く、施設内で過ごすことになるのではないかと。そうなった場合、個室で過ごすことが難しい利用者も多く、感染拡大防止が非常に難しい。 ・ 職員の確保が相当難しく、実際確保できないのではないかとと思われる。 ・ 弁当を余儀なくされる場合、刻み食など特別食対応の利用者も多く、食事の提供が難しい。

令和 2 年 6 月 2 日

47

F A X 通信ご案内

障がい者福祉研究所

事務局 足高 様

送付枚数（本状を除く）： 4 枚

件名:新型コロナウイルス感染症を原因とする福祉

職場への影響に関するアンケートについて

平素からお世話になっております。

このことについて別紙のとおり提出しますので、よろしくお願いいたします。

社会福祉法人 自然の森

エスポアル・セルブ

エスポアル・スター

エスポアル・クワノ

相談支援事業所エスポアル

TEL: 086-284-8004

FAX: 086-284-8006

発信者: 事務局長 鎌田

新型コロナウイルス感染症を原因とする福祉現場への影響に関する
アンケートについて（回答）

法人名 社会福祉法人 自然の森

施設名

エスポアル・セルプ（就労継続支援B型事業所）

エスポアル・スター（生活介護事業所）

エスポアル・クワノ（生活介護事業所）

相談支援事業所 エスポアル

問題点の概要	1. 利用者及び家族への負担増と経営への影響について 2. マスクや消毒用アルコールの調達について 3. 日中活動の制限について 4. 職員の業務負担増について 5. 担い手不足について 6. 受入先での障害特性に配慮した支援について 7. 通所系サービス事業所における国の緊急対策への対応について
--------	---

具体的事例	1. 感染拡大防止の観点から感染者や濃厚接触者の発生がない状態でも、本人及び同居の家族の体調や県外への外出状況等により、数日から2週間以上の利用自粛をお願いし、また施設からの要請がなくても感染予防のため自主的に利用を自粛している人もいる。 利用自粛期間中は自宅で過ごすことになり、生活リズムの変化から情緒が不安定になる利用者や仕事に影響がでる保護者もあり、加えて、公共交通機関を利用しての来所は、自粛をお願いしていることから、家族送迎が増えており、保護者の負担が増大している。 施設での送迎にも限界があることから、他業種からの支援が受け易い制度の構築をお願いしたい。 さらに、減収による事業運営への影響も懸念され、助成金や補助金の対象にならない程度の減収であっても、限られた報酬のなかで運営を行っていることから、回復には、かなりの期間を要すると思われる。 厳しい状況のなかで職務に励んでいる職員への処遇改善等も含めた、より実効性のある支援策を切望する。 2. マスクや消毒用アルコールの調達については、改善傾向にあるものの、納期や価格等の理由から事業運営への負担が増している。 国内生産を含め、生産国の分散や他国との連携・協力により、安定的な供給ができるよう努めていただきたい。 3. 感染防止の観点から、施設での日中活動も買い物や散歩、調理活動などを自粛している。また、限られたスペースで三密を避けながらの活動は、選択肢が少なく苦慮している。加えて、マスクの着用ができない利用者もあり、常にリスクと背中合わせの中で支援を行わざるを得ない状況である。活動の幅が狭くなることで、利用者の情緒にも影響し、支援そのものにも影響が出ている。 安全を確保しつつ多彩な活動を提供するには、ノウハウだけでなく
-------	--

ハード面も重要であることから、施設整備に係る予算措置の拡充を検討していただきたい。

4. 感染予防のための業務量が増大するなか、子どもを小学校や保育園に預けながら働いている職員は休校・休園により就業できず、限られた人員で、日々の業務に追われている。

また、出勤する職員の健康状態を厳しくチェックしており、体調が悪ければ出勤の自粛を行っていることから、負担が増える他の職員へのケアに苦慮している。

両立支援等助成金のような一部の職員のみを対象としたものではなく、1.でも述べたように、職員全体の処遇改善につながる対策を強く要望する。

5. 地域のヘルパー事業所では、60～70代のヘルパーがコロナ感染を恐れて、相次いで退職をするということがあった。訪問系サービスは平時でも担い手が少なく、利用者とサービスを結び付けることに難しさを感じている。また現在の状況が、さらなる社会資源不足となるのではないかという危機感を覚える。

担い手不足の事業所に対して、人員確保につながる即効性・実効性ある制度を整備するとともに、報酬の加算等でサポートできないものか。

6. 行動障害のある知的障害者のご家族から「私がコロナに感染したら、うちの子はどうすればよいのか？どこで誰が見てくれるのか？また、子本人が感染した場合、受け入れ先の病院で、障害特性に配慮した支援が受けられるのか？」と相談されることがあった。相談支援専門員として、そのような場合に何処の機関につなげられるか、また、障害特性に配慮した支援がなされるかどうかや、受け入れ先で障害特性に配慮した支援を受けるには、どうすれば良いかを思案している。

そのようなケースへの対応事例があれば、地域や受け入れ先を問わず、

情報を提供していただきたい。

7. 国から、通所系サービスの提供が困難となった場合の生活介護の訪問支援、就労系のテレワークなどに関する緊急政策が示されているが、現実的に利用できているケースがあるか知りたい。また、利用するまでに、どのような手順を踏めばよいかがわかれば、緊急時に備えることができると思われる。

(46)

FAX連絡表

令和2年6月1日

午前・**午後** 6時 20分

障がい者福祉研究所
代表 足高 慶宣様

春日苑
春日井市廻間町703番地の1
TEL: 0568-88-5593
FAX: 0568-88-5802
担当者: 大島

本書を含め 2 枚 お送りします。

いつもお世話になっております。

アンケートの回答をさせていただきます。
ご確認ください。よろしくお願いいたします。

春日苑 大島

新型コロナウイルス感染症を原因とする福祉現場への影響に関するアンケート

職員より出た言葉です。

- ・発熱等の症状が見られても、居室で隔離することが難しい方もいらっしゃる。(理解力が乏しい)
- ・これまで外出等を自粛し、やっと非常事態宣言が解除されたため通常の生活に少しずつ戻していこうとしているが、危険性は今後も変わらない。しかし利用者に行動の注意と対応を理解していただけるのか心配。
- ・非常事態宣言解除＝通常生活に戻って良いと考えが変わってしまうため、面会時の注意事項に対するご家族の理解が得にくい。(なぜそこまで注意する必要があるのか、自分自身は罹っていないからと変な安心感から対応が雑になりやすい)
- ・非常事態宣言の有無にかかわらず、危険に対する意識は、ワクチン等が見つかるまでは変わらないことをもっと伝えて欲しい。
- ・マスクや消毒液不足。
- ・面会や外出規制へ利用者理解。
- ・規制のよって利用者への処遇が不十分になってしまう。
- ・職員の発熱等体調不良の場合の対応 (どのくらい様子を見るのか等)
- ・マスクをしていないなどの対策をしていない利用者との面談に不安を覚える。
- ・特定定額給付金申請補助 (通帳等の個人情報の扱い方)

45

障害福祉サービス事業者

新型コロナウイルス感染症を原因とする福祉現場への影響に関するアンケート

問題点

- ・障害者に関しては、手洗い、マスク着用、3密に関しての意識が薄く対応が難しい。もし感染したとしても、隔離などの対応も厳しい、拘束するしかないと考えている。その際奇声やパニックはあるだろう、リスクの高い利用者もいる。病院体制にも限界がある酸素吸入器も3台しかないと伺っている。入所施設ということもありクラスターが発生すれば、行き場を失う。
- ・病院は受け入れてくれるか。
- ・家族は受け入れてくれるか。 家族の高齢者が多い 家のない人もいる
- ・医者は派遣できるか。
- ・感染者がでた場合の職員の配置の問題や、離職するのではとの不安。

具体的事例

- ・対応として、手洗い・うがい・マスクの着用、極力外出や外部との接触を制限している。
しかし、施設関係者には自粛を呼びかけ促しはしているが日常まで制限することは難しく、生活を維持していくための不特定多数の人との接触は避けられない。 心配だ
- ・入所者以外の通所利用者の利用を制限している。
- ・デイサービスに関しては時短で対応している。
最低限の健康管理、食事、排泄、入浴の提供等

私たち地域にはコロナウイルスの感染は確認されていないのが幸いです。

社会福祉法人 ボロシリ福祉会
中札内みのり園(障がい者支援施設)

(44)

FAX

送付先: 障がい者福祉研究所

発信元:

中札内みのり園

足高 様

細岡 一男

FAX 番号: 0438 - 38 - 5610

送付枚数: 送付書 2枚

電話番号:

日付: 令和2年6月1日

件名: 新型コロナウイルス感染症を
原因とする福祉現場への影響に
ついてのアンケートについて

配布先:

☐ 至急! ☐ ご参考まで ☒ ご確認ください ☐ ご返信ください ☐ ご回覧ください

● 連絡事項:

いつもお世話になっております。

アンケートについて、別紙のとおり送りますのでよろしくお願いします。

〒089-1371 河西郡中札内村上札内基線 322 番地 4

中札内みのり園 (障がい者支援施設)

TEL 0155-69-4545 / FAX 0155-69-4646

Mail: minorien@rainbow.ne.jp

新型コロナウイルス感染症を原因とする福祉現場への影響に関するアンケート

問題点など	① 感染症対策で使用するマスクやアルコール等の確保が難しい。 ② 短期入所サービスの受け入れを制限しているため、減収となっていることと、家族の負担が大きい。 ③ 感染が疑われる者がでたときに、病院や保健所に確認しても「様子をみてください」との指示が多く、施設内での対応が困難。PCR検査を積極的に実施してほしい。 ④ 感染症を施設内に持ち込まないように職員は常に緊張感と消毒などの労働負担が大きい。 ⑤ 強度行動障害支援者研修等の延期により、人員配置での問題が出ている。
-------	--

アンケートについて報告させていただきます。

障がい者支援施設 中札内みのり園
担当：細岡

(42)

FAX 送付状

送付年月日 令和2年5月29日送付枚数 2 枚

送り先:

障がい者福祉研究所
足高 様

発信人 319-1224

茨城県日立市南高野町 2-10-24

ひたち育成会 事務局

(担当:山里)

TEL 0294-54-1217

FAX 0294-54-1116

大変、お世話になっております。

新型コロナウイルス感染症を原因とする福祉現場への影響に関するアンケートにつきまして回答致します。ご査収ください。

新型コロナウイルス感染症を原因とする福祉現場への影響に関するアンケート（回答）

社会福祉法人ひたち育成会

- 1 福祉関連の事業は生活に密着した事業という事で、休業等の対象にならなかったが、障害特性により、3密の意味が理解できない利用者様、マスクの着用が出来ない、または拒否する利用者様や、抵抗力が弱く感染すれば重篤になるであろう利用者様がいる中で通常とは違ったストレスを感じながらの勤務となった。また、施設内、送迎車内等消毒等の徹底をするため、業務が煩雑となった。
- 2 グループホームでは、発熱等の症状が出た場合、自宅に帰すべきなのか、グループホームで過ごすべきなのか、職員に感染してしまうと、施設機能が失われてしまう可能性がある等、選択が難しい場面が見られた。
- 3 子育て中の職員は学校が休校になった関係で、預け先がなく、勤務が出来なくなったため、支援の手が足りない状況が生まれた。また、対象職員は年休消化後は欠勤となった為、収入も減少した。
- 4 相談業務では本人や家族、事業所の担当と会うことができず、本人の状態の把握が難しくなった。その他、緊急対応の必要な利用者が出た場合短期入所等の手配ができるのか等不安も多かった。
- 5 数は多くなかったが、利用者、保護者等で過敏になられている方への精神的なケアが必要な場面が見られた。
- 6 通常購入できていたマスク、ゴム手袋、消毒液等が入手困難又は高額となり、業務に支障がでそうになった。その点では県や市のサポートがあり助かった。
- 7 業務継続については1で述べたようなストレスがあったが、経営的にはクラスター等で休業になった場合は利用者、保護者の行く場所の確保もそうであるが、職員の給与支払いも出来なくなる恐れがあり、ぎりぎりの綱渡りであった。
- 8 その他、申請をしている補助金等がどうなるかといった不安もある。

以 上

令和 2年 5月 29日

(4)

F A X 送 信 票

【送信先】 障がい者福祉研究所
担当：事務局 足高 様

【発信元】 〒020-0611 岩手県滝沢市巢子148-28
社会福祉法人やまゆり会 障がい福祉サービス事業所みのりホーム
生活介護担当係長兼サービス管理責任者 小野寺 功

【電話・ファックス番号】
TEL 019-694-3003 FAX 019-688-1177

【件名】 新型コロナウイルス感染症を原因とする福祉現場への影響に関する
アンケートについて

【送信枚数】 2枚（この用紙を含む）

日頃より大変お世話になっております。
標記の件につきまして、別紙のとおり回答いたします。ご査収の程よろしくお願い
いたします。

令和 2年 5月29日

新型コロナウイルス感染症を原因とする福祉現場への影響に関するアンケート 回答

- ・ 新型コロナウイルス感染症の影響で、販売イベントの自粛が重なったこと、またリサイクル資源の買取価格が下落したことなどで、就労支援事業収入が減収となった。それに伴い、令和元年度の就労継続支援B型利用者平均工賃が10,931円(前年比85.7%)となった。
今年度に関しても、同様の収入状況が続くことが予想されるため、該当する区分が下がり、基本報酬単価が下がってしまうことを懸念する。
- ・ 誕生月毎に個別支援評価及び計画更新のための面談を行っていたが、密接を避けるため書面でのやり取りとしている。顔の見える環境で、自宅での様子や何気なく聞けていた情報などをじっくり聴くことができる機会が少なくなってしまったように感じる。
- ・ 例年実施していた研修旅行や地域との交流を目的とした夏まつりなどの行事を中止することとなり、利用者の楽しみや経験拡大、地域に根付いた活動の機会が少なくなってしまった。

障がい福祉サービス事業所みのりホーム

岩手県滝沢市巢子148-28

TEL:019-694-3003

FAX:019-688-1177

担当:小野寺

(40)

F A X 送 付 案 内	
送 信 先	障がい者福祉研究所
	担当:事務局 足高 様
発 信 元	大分県由布市庄内町西長宝1426-1
	障害者支援施設 久保更生園
	TEL (097) 582-1213
	FAX (097) 582-1599
	担当:四井 宏和
発 信 日	令和 2 年 5 月 28 日(金)
発信枚数	2枚(送付案内を含む)
備 考	お世話になります。 新型コロナウイルス感染症を原因とする福祉現場への 影響に関するアンケートです。 よろしくお願いします。



令和2年5月28日

障がい者福祉研究所 様

大分県由布市庄内町西長宝 1426-1

社会福祉法人 庄内厚生館

障害者支援施設 久保更生園

管理者 井上 満博

新型コロナウイルス感染症を原因とする福祉現場への影響に関するアンケート

- 新型コロナウイルス感染症対策により、当施設への外部の方の立ち入りを自粛して頂いていることから、日中一時支援及び短期入所の利用については自粛して頂いている。そのため、利用者の行き場がないことで、保護者への負担が大きくなっていると思われる。また、当施設としても報酬減となっている。
- 新型コロナウイルス感染症対策により、保護者の面会や利用者の外出、一時帰宅等は自粛をして頂いている。保護者の方が利用者に会えないことへの不安や利用者自身も外出等が出来ないことで、ストレスとなっており、不穏行動が多発している。
- 新型コロナウイルス感染症対策により、外部研修や関係機関との会議等について、自粛をしていることで、職員のスキルアップや関係機関との連携が難しいことがある。

社) 五色会

39

〒861-4617
熊本県上益城郡甲佐町津志田 2472
TEL096-234-4311 FAX096-234-4308

障がい者支援センター
あ ゆ の 里

送付先: 障がい者福祉研究所 事務局 足高様

発信元: 下田

FAX 番号:

送付枚数: 2枚 (送信票含む)

電話番号:

日付: R2. 5. 28

件名: 新型コロナウイルス感染症を原因とする福祉現場への影響に関する
アンケート

☐ 至急! ☐ ご参考まで ☒ ご確認ください ☐ ご返信ください ☐ ご回答ください

ご依頼のありました、新型コロナウイルス感染症を原因とする福祉現場への影響に関するアンケートについてFAXいたします。ご確認のほどよろしくお願いします。

障がい福祉研究所 新型コロナウイルス感染症を原因とする福祉現場への影響に関するアンケート
事業所名：障がい者支援センターあゆの里
住所：熊本県上益城郡甲佐町津志田2472 TEL：096-234-4311

1.問題点

- ①マスク、使い捨てグローブ、アルコール消毒液などの市販品の在庫切れや値段の高騰でこれまでのように購入することが難しい
- ②障害者施設であるため新型コロナウイルス感染症防止ため体温計の非接触型を手に入れたいが、ドラッグストアや今まで利用していた介護用品、医療品の通販サイトでの取り扱いがなく手に入れることができない。
- ③生活介護やグループホーム事業所で余暇や買い物支援のため定期的に外出を行っていたが、感染防止のため外出については制限せざるを得ないためプログラムが限定される。
- ④外出が難しいことでストレスを感じられる利用者の方もおられる

20

FAX送信通知書

発信年月日 ; 令和2年5月28日10時10分

発 信 者	北海道釧路市紫雲台2番30号 社会福祉法人 釧路愛育協会 ひかり自立支援センター 所 長 小 幡 健	TEL 0154-41-5640 FAX 0154-41-6942 E-mail: obata-takeshi@kaa-hikari.jp
送 信 先	障がい者福祉研究所 代表 高 足 慶 宣 様	
枚 数	送信通知書を含め、B4・B5・ <u>A4</u> ・その他 1枚	
件 名	新型コロナウイルス感染症を原因とする福祉現場への影響に関するアンケートについて	
..... 1. グループホームを利用している方は、買い物、外食等の外出に行けないこと。利用者支援においては地域の公共機関を利用した余暇活動、レクリエーションの活動ができないことでストレスがたまり落ち着かなくなったり、不安になったりする利用者が見受けられます。 食えることに喜びを感じる方も多いので、例えば普段食せない珍しい食べ物が送られてくるとそれを媒介に落ち着いて過ごすことができたりますのでそのようなサービスが提供されると助かります。 2. 介護の現場（当方は重度知的障がいのグループホーム）での利用者の支援については、排泄介助、食事介助等、利用者のそばに寄り添っての支援がほとんどで接触せざるを得ない環境にあるため、緊急の災害とは違い今回のような感染症流行に対しての準備が不足しております。あらためて非常災害の備え（非常食・水・灯り等々）同様、マスク、消毒液、フェイスガード、使い捨て防護服等々備えておく必要があると感じています。 		

37

多治見市社会福祉協議会

送付先: 障がい者福祉研究所

足高 様

FAX 番号:

送付枚数: 2 枚 (本紙含む)

電話番号:

日付: 2020/5/29

要 件: アンケート調査 (回答)

配布先:

☐ 至急! ☐ ご参考まで ☒ ご確認ください ☐ ご返信ください ☐ ご回覧ください

● 連絡事項:

お世話になります。

新型コロナウイルス感染症を原因とする福祉現場への影響に関するアンケートの件につきまして、別紙のとおり回答いたしますのでよろしくお願いいたします。

以上

<担当>

社会福祉法人

多治見市社会福祉協議会

自立支援課 (優が丘)

中島 徹

住所: 多治見旭ヶ丘 7-16-71

電話: (0572) 29-1424

Fax: (0572) 29-1819

Eメール: jiritushientyo@t-syakyo.or.jp

<ご参考>アンケート回答様式の一例[障がい者のご家族の立場から]

問題点の概要	1. 障がい者の家庭への負担が激増している。 2. 工賃が減少する 3. 職員の負担が増加する
具体的事例	1. 日常的に通っていた生活介護事業所が、新型コロナウイルス感染拡大防止対策によりサービス内容を入浴サービス、その他ご相談に応じ食事介助のみとした。併用している事業所が閉鎖された利用者もいる。そのため、利用者の生活リズムが異なり、家庭内であっても不安定な状況に陥ってしまっている方もいた。 就労支援事業所は、家族送迎の協力を依頼し、また、自主的に自宅待機されている利用者・家族もいた。家庭内であっても不安定な状況に陥ってしまっている方もいた。 通常開所しても、利用者自身も高齢の家族への感染の不安が大きいと聞いている。 2. 請負っている仕事が不安定となり、減少している。単発での他の請負の仕事を探すことが難しい。自主製品の開発は進めている。 3. 施設・車の消毒、3密にならないように随時の注意で、勤務時間内は目が離せない。当初はマスクも入りにくく1枚60円で購入していた時もある。消毒液は順番待ちで購入している。 行事の中止によって、周知や、訓練、意見聴取が十分できなかったり収益事業の収入減があったり対応に苦慮している。

6. お問い合わせ・送付先等

- ① 郵送先 〒299-0202 千葉県袖ケ浦市林 437 番 1 障がい者福祉研究所
- ② TEL 0438-38-6110
- ③ FAX 0438-38-5610
- ④ Email social-welfare-lab@e-mail.jp

7. その他

- ① ご提供いただいたアンケート内容は、議員連盟所属国会議員に提供し、勉強会・議員連盟での検討課題とさせていただきます。
- ② ご提供いただいた内容は、勉強会・議員連盟の活動のみに利用致します。

以上

(36)

障がい者福祉研究所 足高 様

〒276-0001

千葉県八千代市小池 3 9 3

TEL 047-488-8222

FAX 047-488-8229

社会福祉法人 心聖会

小池更生園
富田 佳奈子

お世話になっております。

ご依頼いただいていた「新型コロナウイルス感染症を原因とする福祉現場への影響に関するアンケート」をお送りいたしましたのでご確認をお願いいたします。

今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

「新型コロナウイルス感染症が原因で、

福祉現場にて生じている問題等に関するアンケート」への回答について

回答者：社会福祉法人 心聖会 小池更生園 富田

・備品の調達が難しく、1枚のマスクを長時間使用する等不衛生な状態になった

<不足が懸念されたもの>

アルコール液、マスク、ビニール手袋、トイレットペーパー等

※感染者の発生を想定し、防護服、シールド、ゴーグル、隔離場所に設置する簡

易ベッド等の準備を進めたが、品切れが多かった

・新型コロナウイルスを対象とした専用のマニュアルがないため現在作成中

障害を理由に医療機関への受け入れが難しいことが予測されるが、施設内で

隔離するスペースを確保する等の対策が十分できるかわからない

通常業務と並行して感染症準備や職員の学習の時間を設けることが難しく、

いざ発生した際に十分な対応ができるか不安である

・ご利用者の特性上、マスクや手洗いといった予防対策が難しい

通常の日課を崩すことで不安定になる方もあるため、いつもの活動を実施し

ているが、介助という部分も含め三密の状態を解消するのが難しい

・普段から障害を理由に医療機関の協力を得られないこともあるが、熱の高い方

の検査を受けられないことがあった

(35)

障がい者福祉研究所 御中

いつもお世話になり有難うございます。
添付書類（表紙+1枚）を送付しますので

ご担当者 様

へお届けくださいますようお願い致します。

☆ 発 信 日 時

令和2年 5月 26日

社会福祉法人ウイズユー

発信者 澤田

鳥取市晩稲 306 番地

Tel 0857-31-0077

Fax 0857-31-0017

E-mail withyou@river.ocn.ne.jp

お世話になります。

ご依頼のありました「新型コロナウイルス感染症を原因とする福祉現場への影響に関するアンケート」について別紙のとおり回答致します。

宜しくお願いいたします。

新型コロナウイルス感染症を原因とする福祉現場への影響に関するアンケート（回答）

社会福祉法人 ウイズユー

1 就労継続支援A型について

本法人の就労継続支援A型の主力事業である「クリーニング事業」は、ホテル・旅館の洗濯物を取り扱っている。新型コロナウイルス感染拡大防止対策により、外国人観光客、国内旅行者（ビジネス・観光等）が激減したため、洗濯量の大大幅な減少により事業収入が激減している。

このため、就労時間を短縮せざるを得ない利用者の賃金については、休業手当、雇用調整助成金により減少額を補填しているが、同感染発生前に比較して著しく減少しており、社会的弱者としての利用者への影響が顕在化している。

2 共同生活援助について

今後、グループホーム利用者に新型コロナウイルスの感染者や、感染者の濃厚接触者が発生した場合、居住サービスを提供する本法人のグループホームでは、看護師や当直職員の配置を要しないため、既配置世話人の保健面の技能や、施設・設備の制約等により、感染症に充分に対応できない。

このため、グループホームを15か所運営する本法人においては、状況によっては「グループホームの崩壊」となる危険性が高い。

③④

2020. 5. 26

障がい者福祉研究所 御中

→ 大橋 (一) 社) 朝日会

(茨城県笠間市) 障害者支援施設 愛の里 施設長

Tel 0296-72-8131

コロナに係るアンケート(回答) Fax 0296-72-8771

理事長 森 重正

1 利用者・職員の陽性が判明した際の対応法

小さな施設なので、施設内のゾーニングも物理的に無理があるし、人的体制、防護具や衛生用品など、すべての面で対応が可能かどうかとても心配です。

2 支援とソーシャルディスタンス

利用者さん一人ひとりの生活すべてに寄り添うことが支援なので、例えば、食事・入浴・排泄、どれをとっても利用者さんと密着せざるを得ない。一定の距離を取るのは困難です。

23

ファックス送信票

(送 信 先)

障がい者福祉研究所

事務局 足高 様

(枚 数) この票を含め2枚

(発信年月日)

令和2年5月26日(火)

(発 信 先)

岩手県社会福祉事業団事務局

業務企画課

職 名

主任業務企画主査

氏 名

高橋 重幸

〒020-0114

岩手県盛岡市高松3丁目7-33

Tel 019-662-6851

Fax 019-662-8044

サイボウズ:cent11

(標題)

新型コロナウイルス感染症を原因とする福祉現場への影響に関するアンケート
の回答について

いつもありがとうございます。

別紙の通り回答いたします。

よろしくお願いします。

新型コロナウイルス感染症を原因とする福祉現場への影響に関する
アンケートの回答について

回答者 社会福祉法人岩手県社会福祉事業団

○アンケートの依頼内容

新型コロナウイルス感染症の拡大及び対応が原因で、障がい児・者とその家族、及び事業者の皆様が直面している問題点、困っていることなどをご回答ください。

障害福祉サービス事業者として、下記のとおり回答します。

項目	内容
利用者支援に関すること	施設で感染が発生した場合、継続して支援を行うための防護具セット（ヘアキャップ、ゴーグル、マスク、フェイスガード、上下防護服、手袋、シューズカバー）が不足している。
費用に関すること	感染症拡大防止に係る資材購入（マスク、消毒液等）価格高騰から、経費負担が重くなっている。
人材確保に関すること	施設で感染が発生した場合は、職員にも感染が拡大し、支援にあたる職員が不足するのではないかと危惧している。

【担当：事務局業務企画課 高橋 TEL019-662-6851 fax019-662-8044】

32



ファクシミリ送信状

送信先

障がい者福祉研究所
代表 足高 慶宣

送信元

社会福祉法人 十字会
博愛ヴィレッジ

〒779-4702

徳島県三好郡東みよし町西庄字浪内 49-1

TEL: 0883-82-2871

FAX: 0883-82-3295

メール: hakuai3@yahoo.co.jp

工房ヴィレッジ

TEL: 0883-82-1091

FAX: 0883-82-1092

令和 2 年 5 月 25 日

送信枚数 2 枚 (本状含む)

送信担当者名 博愛ヴィレッジ

いつもお世話になっております。

「新型コロナウイルス感染症を原因とする福祉現場
への影響」に関する アンケートのお願い。

入所施設からの課題と要望について
送信 させていただき ます。 よろしく
お願いいたします。

新型コロナウイルス感染症を原因とする福祉現場への影響に関するアンケートについて

入所施設からの課題と要望について

入所施設は、外部から新型コロナウイルスが入ってくると、建物の構造上、隔離設備もなく、たちまち全入所者に感染するリスクが非常に高い。先般報道された、千葉県・神奈川県・広島県の施設でも集団感染が発生している。

特に、重度障害者が多く利用している施設は、脆弱な設備の中で苦悩している。現在の建物構造では、新型コロナの感染対策に対し、まったく対応出来ないといっても過言ではない。

今後、長引くであろうと思われるコロナ感染症対策として、下記の要望をお願いしたい。

記

- ① 発生時に、簡易な隔離設備の助成
(特に強度行動障害者の特性に配慮したスペースの確保)
- ② 自動換気装置の整備助成
- ③ 発生時、担当職員は 2 週間程施設内に待機しなければならない。職員専用のシャワールーム、仮眠室等の整備助成

以上、利用者の生命を守ると同時に、職員の安全確保のため、ぜひよろしくお願いします。

徳島県三好郡東みよし町加茂 1450 番地

社会福祉法人 十字会

理事長 加藤和輝

(31)

F A X 送 信 票

下記の文書を送信いたしますので、よろしくお願いいたします。

送信先FAX番号 0438-38-5610	
宛 先	千葉県袖ヶ浦市林437番1 障がい者福祉研究所 事務局・足高様
送信枚数	送信票を除く 2枚
送信日時	令和2年 5月 25日
送信内容 「新型コロナウイルス感染症を原因とする福祉現場への 影響に関するアンケート」について別紙の通り送付させて 頂きますので、よろしくお願い致します。 	
発 信 者	社会福祉法人 西予市野城総合福祉協会 障害者支援施設 野村育成園 【 担当 : 境 博美 】 〒797-1212 愛媛県西予市野村町野村8-479-1 TEL (0894) 72-0826 FAX (0894) 72-3467 E-mail: noiku@me.pikara.ne.jp

「新型コロナウイルス感染症を原因とする福祉現場への影響に関するアンケート」

【愛媛県】 障害者支援施設 野村育成園

【回答者】 施設長補佐：境 博美

※障害者支援施設:入所施設の立場から回答させていただきます。

問題点の概要	1. 入所利用者さんのストレスが激増している。 2. 職員への負担、ストレスが激増している。 3. 感染者を隔離できる建物・設備がない。 4. 感染予防のための備品が手に入らない。
具体的事例	1. 定期的に家族の面会や帰宅できていたが、感染予防の観点から自粛をお願いした。 ご家族は説明をすることである程度の理解を得られるが、不安を訴えられる方も多かった。入所利用者さん本人は説明しても理解する事が難しく、不安定になる頻度が増加している。 施設近隣で感染者が出ると、外出制限も必要になり、外食や買い物等楽しみにされている活動が出来なくなった。 2. コロナウイルス感染症が流行初期の2月末頃より、職員に対して不要不急の外出を控えるように、行動制限をお願いしている。職員が持ち込まないという事を念頭に、出勤前には検温を実施し、体調管理に配慮している。 行動記録の記入もお願いして、提出できるように準備を整えている。 実際に発熱して肺炎を発症してPCR検査を実施した利用者さんがおられたが、検査結果が出るまで入所施設で待機ということで、2日間専属の職員を配置した。限られた人員で勤務しているため、個別で対応職員を配置する事で、他の勤務日に大きな影響が出てしまうことになる。また、勤務した職員は不安とストレスでいっぱいであったと考えられる。感染の有無も分からないまま入所施設で受け入れをするのは、感染防止対策からも危険であり、検査結果が出るまで入院できる場所が必要だと考える。 3. 障害者支援施設では、病気であっても部屋で静かに休むことのできない重度の利用者さんが大勢入所されている。感染性の強い病気であっても、同じ居住空間で生活していれば蔓延してしまうのも時間の問題である。清掃や消毒で回避することはできない。また、感染症防止を目的とした居室の空きはない。 4. 施設で保管していたマスクの在庫が減少し、購入しようとしても高価で購入できない。本来であれば職員に1日1枚配布していたが、先が見えない状況であり、配布された布マスクを使用してもらっている。個人購入したマスクを使用している職員も多い。 アルコール消毒や防護着等の備品もなかなか手に入らない状態であり、代用品を準備しているが、感染者が出た時には医療物資の不足が想定される。

(令和 2年 5月 24日)

F A X 送 信 状

(30)

送信先

障害者福祉研究所

足高 様

送信枚数 (送信紙を併せて 3 枚)

送信元

障害者支援施設 草笛が丘

社会福祉法人

火丁会

理事長 川辺 淑美

TEL: 0950 - 57 - 1228

FAX: 0950 - 57 - 3376

送信者

備考

新型コロナウイルス感染症を原因とする

福祉施設への影響に関するアンケートについて

利用者の方の生活制限として・・・

- ・ゴールデンウィークを含む週末帰省禁止。家族面会禁止。
- ・外部指導者による活動の休止(音楽・3B体操・リズムダンス・書道他)。
- ・検温・うがい・手洗い・手指消毒を念入りに行うことから日中活動時間の縮小と3密状態を作らない日中活動の工夫(棟別の閉鎖的活動)。
- ・日中活動はドライブや施設周辺散歩、中庭でのレクリエーション等屋外での活動を主に。地域交流的活動の中止。
- ・3密状態を作らないための時間差による食事提供と食事の場所を細かく分ける(食堂・居室・フロアー・娯楽室・支援室等、また、間隔を2m以上取ることや向かい合わせで食べない。食事介助も同様)。
- ・余暇活動はドライブや人気のない公園散策程度、買い物は自販機限定で。
- ・施設行事・施設参加行事中止(親子遠足・ゆうあいスポーツ大会・ソフトボール大会・旅行等)

* 上記内容での生活を現在も継続しており、利用者の方にとっては大変窮屈な自由の利かない生活となっている。特に週末の自宅帰省や家族面会、外出を禁止している事から、情緒的に不安定状態の方も多く自傷行為や他害行為に繋がっている。

支援現場職員として困ったこと

・出勤前検温、マスク使用、手指消毒は当たり前のこととして神経質な程行いながら仕事に従事しているが、同居家族の風邪等での発熱があった場合、その申告と同時にコロナを疑い休暇を取らざるを得ず、期間も14日間と長いため支援現場としてのシフトが組めない。また、家族の都合上県をまたぐ外出がどうしても必要であった場合も同様で、特にコロナ発症が多い県に入った場合は用心のため14日間休暇を取ることとなった。他、コロナウイルス感染予防対策会議とマニュアル作成、環境整備にかなりの時間を費やしており、このことも含め結局は利用者の方へのしわ寄せがいったしまった。

医務

【困った点】

- ・発生時の対応として、原則個室となっていたが、個室の確保が難しく、一部業者に入ってもらった大掛かりな部屋作りとなった。
- ・施設内において、感染経路の遮断が難しい部分がある。
- ・利用者の方で手洗いができない方が多いため、職員が付いての手洗いをを行うため時間がかかる。
- ・疑いのある方への対応で、可能な限り担当職員を分けることが、今の勤務状況の中で難しい。
- ・感染経路の遮断という意味で、火災避難時の確保問題。
- ・物品の購入…ガウン類が品薄で準備に困った。
- ・物品の不足 マスクについては、国からの配付等、また布マスク使用もあり何とかしのげているが、体温計が購入できず困っている。(1日頻回の測定のため)
- ・保健衛生費の出費が増えた。
- ・マニュアル作りや準備にかなりの時間がかかった。

【よかった点】

- ・コロナ疑いとしての再対応を行ってみて、再確認ができたことはよかったと思う。
- ・感染防止のため通院を控えているが、かかりつけ病院がよく相談にのってくれる。

新型コロナウイルス感染症を原因とする福祉現場への影響に関するアンケート用紙

新型コロナウイルス感染症の拡大及び対応が原因で、障害児・者とその家族及び事業者が直面している問題点、困っていることなどを以下にご記入ください（自由記入）。

知的障害を伴う自閉症の成人がいる家族です。

自閉症の特性から日常の繰り返しは本人の安定につながっています。しかし、災害などがあり日常が違ってくることで本人の中で納得がいかにパニックがおこります。

テレビ番組がいつもと違う・アニメが再放送になっている・大好きなカラオケに行けないなどです。また、楽しみにしていたオリンピックの延期があり、大きなパニックになりました。みんな我慢していることだから当たり前だと思うかもしれませんが、こうした「当たり前」や「我慢」ということが分からない人たちにとっては、計り知れない苦痛を感じているようです。パニックに回数が増えると家族との衝突もあり家族としてもたいへんな状態です。

また、知り合いの自閉症の幼児は、マスクやフェイスシールドにおびえる状態が出ています。こういった場合、保育を受けることも難しくなっています。

知的障害の部分から言いますとマスクや手洗いなど形としては、できていますが、マスクから鼻が出ていたり手洗いも不十分だったりすることがあり感染の面からも不安を感じます。こうした人たちに知らせることは、繰り返ししかなく人手もいることです。感染を避けるため作業の部屋を分けるとその分、人手も増えると考えます。消毒なども行うことを考えると開所を続けるには、人を増やすことも考えてほしいです。今、政府の要請もあり開所してもらっていますが、車での送迎など感染のリスクがあるような気がして不安になります。人を増やすように政治の力で財政的に支援してほしいです。

作業所の時間が短縮になったことで、その後の預かりの時間が増え、家計に響くことがあります。預かってもらわないと仕事ができないので仕方がないです。

社会福祉法人 遠海会

F

(28)

F A X 送 付 書

発信年月日	令和2年 5月 22日
送 付 先	障がい者福祉研究所 足高様
F A X 番 号	0 4 3 8 - 3 8 - 5 6 1 0
発 信 元	障害者支援施設 浜名学園組合 浜名学園
電 話 番 号	電 話 0 5 3 - 5 9 4 - 1 2 3 6
F A X 番 号	F A X 0 5 3 - 5 9 4 - 2 1 2 8
送 付 枚 数	送付書1枚+1枚
件 名	<u>新型コロナウイルス感染症が原因で、福祉現場にて生じている問題等に関するアンケート回答</u>
連 絡 事 項	上記、アンケートについて、別紙回答を送らせていただきます。 よろしくお願いいたします。 障害者支援施設浜名学園サービス管理責任者 市川 知代

新型コロナウイルス感染症を原因とする福祉現場への影響に関するアンケート回答

①感染予防のためのマスク、アルコール、万が一に備えての防護服、ゴーグルなどの物資購入に苦慮した。

②行事や慰問など外部との接触を制限した為、利用者の活動にも幅が無くなり体力減少や情緒面への影響がある。

③利用者の一番の楽しみである帰宅を制限し、外出も本人の受診が必要な通院のみと制限した為、健康面や情緒面で不安定になってしまった。

④外部からの出入りを制限し、短期入所、日中一時事業の停止をしたため、事業所の収入が大幅に減ってしまった。

⑤短期入所、日中一時を利用していた利用者はその時間を家庭で支援している、家庭での支援時間が増えることで、本人にも家族にも負担がかかっている。

⑥利用者が体調を崩し発熱した時に、医療機関からは保健所の許可がないと通院は受け入れられないと言われ、保健所に連絡をしたが何度電話をしても繋がらなかったため、結局受診することができなかった。少しの異変が命に係わる利用者の多い中、通常なら早期発見、早期治療により重度化する前に処置し利用者の健康を維持するべきなのに、コロナ対応に振り回され本来必要な受診ができないことに不安を感じた。

回答者：浜名学園サービス管理責任者
市川 知代

〒431-0303 静岡県湖西市新居町浜名1855-3

TEL 053-594-1235

浜名学園組合 障害者支援施設 浜名学園
生活介護事業所 浜名学園きぼう
就労継続支援B型事業所 なぎさ作業所

⑦

F A X 送 信 案 内

送信先 障がい者福祉研究所 事務局 担当 足高様

社会福祉法人 仁 栄 会

☐ 知的障害児通園施設 ねむのき

徳島県板野郡松茂町広島字録ノ先23番地1

TEL 088-699-2200

FAX 088-699-5425

☒ 障害者支援施設 春 葉 園

徳島県板野郡松茂町広島字録ノ先23番地1

TEL 088-699-5310

FAX 088-699-5425

理事長 河野美彦

拝啓 ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、下記の書類を送信させていただきますのでよろしくお願い申し上げます。

記

件 名: 新型コロナウイルス感染症を原因とする福祉現場への影響に関するアンケート枚 数: 2 枚 (表紙を含む)

その他:

・新型コロナウイルス感染症対策により日課としての外出や外食などが制限され、楽しみにしていた外出などの行事が出来ない事やご家族の面会や利用者の外泊を一時的に制限していたので利用者の精神状態が不安定になる事が多かった。また、ご家族の方も面会が出来ずに不安があった。

・新型コロナウイルス感染症対策によるマスクや手袋、ガウンの購入に関して手に入り辛く、購入価格も高騰、利用者・職員がマスクを確保することが困難。現在ではマスクは薬局などで購入出来るようになったが以前と比べて購入価格が高い。

・入所直後に発熱があった利用者が、利用者の主治医の指示にて自宅での発熱の経過観察を行うことになり、1週間程自宅にて過ごされた。風邪であったが、入所直後であり、入所され長期間施設に居られた方と違い、リスクが高いと判断されたためだがご家族に負担が掛かっていた。

・他法人の老人施設では、マスク・手指消毒や点滴処置などで使用するアルコールがなかなか納品されずに困ったと聞いている。

・職員が感染症を持ち込まない様に普段から気を付けているが、プライベートでも外出を控えるなどで普段以上に気を付けて貰ったが、利用者同様、ストレスが溜まっている。

26

FAX

送信のご案内

令和 2 年 5 月 22 日

宛 名

障がい者福祉研究所

御中

FAX番号 0438-38-5610



発 信 者

特定非営利活動法人 銀河

住 所 〒 036-8255 青森県弘前市大字若葉2丁目7-1

TEL 0172-55-9642

FAX 0172-55-9643

担 当 者 中井

件 名 新型コロナウイルス感染症を原因とする福祉現場への影響に関するアンケートのご送付

お世話になっております。表題の通り、新型コロナウイルス感染症を原因とする
福祉現場への影響に関するアンケートをご送付いたします。

つきましては、お取り計らいの程よろしくお願いいたします。

以 上

送信枚数：

この送信表を含めて

2 枚

【アンケート回答様式】

問題点の概要	1. 現場職員の疲弊 2. 行政からの通達の遅延、判断のばらつき
具体的事例	1. 学校の臨時休校に伴い、長時間の支援や年度の切り替えの準備、通常業務、営業前後の除菌対応を同時並行で行っていたため、職員の疲労が色濃く生じていた。 事業所周辺では大きな感染拡大がなかったものの、障害特性上マスクをつけ続けられない利用児も多いこと、食事・排泄等、日常生活動作に個別の配慮が必要であるため3密とならざるを得ない場面もあること、その中でクラスター防止のための衛生用品、特に消毒用アルコールが不足していることも職員の疲労につながっていたと思われる。 2. 地域的に複数の市町村にまたがって事業運営しているが、行政からの通達について、市町村によって判断内容の差異が大きく、国からの通知に対する解釈が二転三転した。現場での判断が難しく、行政に確認したが具体的内容が確定し、通達されるまでに時間を要していた。

Fax

25

新型コロナウイルス感染症

福祉現場への影響に関するアンケートについて

2020.5.21

- 要望1、
- ・集団感染が起きた場合、人員確保をどうするか？
 - ・職員の人手不足 人数に余裕はない。
 - (看護師が現在2名 二人とも感染してしまい看護師不在になった場合等)
 - ・ひとたび誰かが感染したら多くの職員も濃厚接触者になってしまう。

◎従業員50名小規模法人で集団感染がわかった時点、施設単独で乗り越える事は不可能である。災害派遣医療・介護チームのような組織があるのでしょうか？今後に向けて検討してほしい。

- 要望2
- ・施設内で1名発生すれば集団感染は免れない。早い時点で確定診断を付けることが必要であるがPCR検査をすぐ受けられないので、現在の対応を改善していただきたい。
 - PCR検査を受ける場合、施設に来ていただけるのでしょうか。多くの利用者さんを指定の場所まで連れて行くのは困難です

〒399-1501

長野県下伊那郡阿南町北条1580

社会福祉法人 ひだまりの郷あなん

阿南学園

施設長 熊谷充子

29

新型コロナウイルス感染症を原因とする福祉現場への影響に関するアンケート回答

○子どもの姿の把握、支援計画の作成

登園を自粛しているお子さんも3割ほどおり、様子がほとんどわからない状況になっている。家庭訪問もおこなってはいるものの、個別支援計画の作成・評価等もどのように行っていくか難しく、話し合いを重ねている。個人懇談等の保護者との連携にもばらつきが出ている。

○職員の特別休暇の扱い

小学校以下のお子さんを持つ職員は特別休暇で休みとなり、分散登園を実施しているため、園運営の規模は縮小されてはいるものの、少ない職員での体制で、勤務する職員には少なからず重圧がかかっている。また勤務の職員も分散して療育や作業にあたるようにしているため、体制作りに追われている。

○感染拡大防止の掃除、消毒

普段から丁寧な掃除には心がけているが、感染拡大防止の観点から消毒をより丁寧に行っているため、負担が増している。使った遊具のアルコール消毒や使用した部屋を全て次亜塩素酸で拭く等、消毒液の減りも例年より多いため、いつまで行うべきか迷っている部分はあるがしばらくは継続したいと考えている。

○行事、母子通園等の調整

集団になる事は避けつつ、行事や母子通園を例年通りの流れに少しずつ増やしていけたらと考えているが、どこまで戻していけばよいものの線引きを迷う。またその都度での判断が必要なため、会議や打ち合わせの時間が増えている。

簡単ではありますが、よろしくお願いします。

〒489-0889

愛知県瀬戸市原山町1-14

瀬戸市のぞみ学園

TEL: 0561-82-0154

F A X 送付状

②

宛先

障がい者福祉研究所

様

〒886-0003

宮崎県小林市堤2950番地

社会福祉法人 燦燦会

ふれあいの里

TEL : (0984) 23-4478

FAX : (0984) 23-4503

mail : sansan@mx61.tiki.ne.jp

発信者： 小田 恭子

理事長 令和 2 年 5 月 21 日

新型コロナウイルス感染症を原因とする福祉現場への
影響に関するアンケートについて。

当法人に関しましては、

特に困難なく、異状ございません。

この送信表を含めて 1 枚です

Fax

(22)

2020年5月18日

社旗福祉法人希求会

理事長高田照久

障がい者福祉研究所様

新型コロナウイルス感染症を原因とする福祉現場への影響に関する
アンケートについて

福祉の根幹に関わる問題を勉強会、議員連盟への検討課題として記載します。
この度のコロナウイルスで世界恐慌の恐れを感じます、社会福祉の原資は、それぞれ税金が原資と感じております、コロナ元年の今から経済活動は、期待出来る状況ではないと思う次第です。

国家予算は来年以降多くは望めない、今後の福祉予算は現実的に社会状況に左右され、社会資源の維持に不安定要素として問題になると思う。福祉は近年自立支援法にて、各障害種別の受給方法を財源として来ましたが、今回不安に感じた点は財源確保です、福祉は特別会計予算から一般会計となり、国の予算配分で、決まっています、このコロナで不安定な財源の下に、福祉予算はどのような形態を示すか不安である、安定した施設運営管理を維持できるのか、税金以外の財源確保は有るのか、我々福祉団体に自助努力を求められても、利用者の生きる権利に寄り添う仕事である福祉事業に、自助を要求されても困難である。既に自立支援法に移行して各法人運営の、財務状況の平均値も分かると思う、この基準を基に、特別会計予算に戻しては頂けないか、収益法人は壊滅的損失、A型事業所は休業状態、公益法人は利用者自粛自宅待機、社会資源安定運営、事業者を守るのではなく、利用者が安心安全に生きる為に、特別会計予算に組み入れて欲しいと言う事が、今回勉強会、議員連盟にお願いする事です、厚生労働省は全ての福祉関係機関の決算収支は把握出来ているはずなので、数年度収支を基準に、総額を総括し、景気に左右されない予算の下、社会資源の安定供給をして行きたい。

又国家、地方行政業務の簡素化、審査、認可業務上の行政担当部署連携により、決定事項の素早い実行性等、行政改革も含め、ご審議等宜しく願います。

以上

社会福祉法人希求会

文責 本部長河野友男

2020年5月19日

社会福祉法人希求会

理事長高田照久

障がい者福祉研究所様

アンケート

障がい者の家族の立場から

概要

知的障がい者に、感染症の理解は難しい、絵で書いても理解出来ない、手洗い、うがい、消毒の所作は理解できる、何故施設が休むのか、親が説明しても、理解不能、彼らは、一日、一週間、一ヶ月とルーティンで生活をしているため、週末公的施設閉所（公園等）は行き場を失い困る。自粛は日頃生活が自粛に似ているため、ステイホームは慣れていません。世の中で何が起きているか、災害と違い、キラーを理解させるのが大変です。

事例1

家庭で過ごすにも、週末土日の様に出かけたがる、押さえると、暴れて壁を叩き、右手薬指を骨折、医者連れて行ったが、長時間かかり、コロナ感染を心配した、又マスクを嫌がり直ぐに外してしまい、ノーガードになった。

事例2.

入所施設に居る当事者は、通所施設閉鎖で、入所施設職員のローテーション変更、世話人さん変更等、何時もと違う局面に戸惑い、暴れ出す、椅子を投げたり、テレビを叩いたり、他の利用者の部屋にまで入り、物を壊した。保護者には、利用料自己負担増など経済的にも負担がある

事例3.

知的障がい者家族に健常者の兄弟がいる家庭、一人親家庭の場合、親の介護をする家庭様々な影響が出た、各自の方法で対処するも、家族中の負担が増した、毎日が激務、社会資源の閉所と、間引き開所は、家族負担が増した。

事例4.

一人親学童においては、自粛警察の理解が無く、行動について誹謗中傷を受けた、又スーパーも同行させたが、理解が無く子供の同伴は厳禁と言われた、一人で居られれば連れては来ない、身勝手な自粛警察が多かった。買い物支援が必要です。

以上4点事例を上げましたが、知的障害者の特性は、身体が元気な方が大半、元気のはけ口が家庭内では限度があった。

又施設職員はコロナ感染リスクが増す中勤務を続けていた、マスク、消毒液等の不足を自己責任で備品調達した、医療機関の備品不足は社会が理解しましたが、私達社会福祉施設資源は、自己調達を求められた、今後感染予防準備として、社会福祉施設全体、国の管理下で備蓄し優先的供給をお願いしたい。

Fax

(2)

新型コロナウイルス感染症を原因とする福祉現場への影響に関するアンケートへの回答

R2, 5, 21

岐阜県郡上市 社会福祉法人ぶなの木福祉会

・感染リスクを説明し利用を控えるようお伝えしても、通所、GHともに利用を見合わせる人はなく、むしろ利用率が高くなっているのが当事業所の実情です。

・就労事業がコロナ禍の影響をもろに受けています。

自粛、休業の要請を受け、就労の事業所が設置しているすべての店舗を時短営業、もしくは休業したために4月以降の売り上げは半減しました。にもかかわらず、持続化給付金の対象にはならないということに納得いきません。

法人事業全体の売り上げが確保されているからということのようですが、全体の売り上げ半減ということは、事業所閉鎖の事態ということです。

・休業すると困るのは利用者の皆さんやご家族だということは、現場の私たちが一番よくわかっています。だから、休まざるを得なくなるようなことは絶対避けなければいけないと考え、早くから本人、家族、職員、職員の家族も含め協力しあい、日々緊張感をもって業務に当たっています。

懸命な想いと努力で事業所閉鎖を避けているというのに、そのために対象から外されるというのは、どう考えても間尺に合わない措置です。

一連の制度改革で、現場に求められてきたのは就労支援を事業として自立させるということだと理解していました。就労会計だけで成り立つよう懸命に努力してきました。なのに就労会計で工賃が確保できない場合は報酬から出してもいいというのはあまりにご都合主義で、これにも納得がいきません。安直すぎます。

お金ではなく、考え方に問題を感じるのです。

福祉は現場。サービスを提供する現場が利用者の生活を支えているのです。その現場に対して思いやりを感じない。ということは利用者の暮らしがおざなりにしか考えられていないということ。こんなことで福祉に人材が集まるはずがない?。

・国や県、市からは毎日のように通達がきていますが、要は、何が何でも事業を続けろということだけ。アリバイ作りのように、文書であれこれ言うだけで、今までにあったのはわずかに限られたマスクの配布のみというお粗末さ。これではまるで竹やりで戦闘機に向かっていけと言っているようなもの。

結局は、この間の社会構造改革がお茶を濁す程度でしかなかったということがはっきりしたという意味では、コロナ禍も悪くないのかもしれないと、思ったりもしています。戦後70年、日本の政治や行政が誰のためにあるのか?。つまりところは、私たち国民一人ひとりの質が問われる問題でもあります。

文責:理事長 野田美鈴



29

事 務 連 絡
令和 2 年 5 月 20 日

障がい者福祉研究所 様

ご依頼のコロナウィルス感染症を原因とする福祉現場への影響に関するアンケートについて、下記にその内容を記載させていただきました。
ご確認下さい。

- ・入所施設の運営上の課題は、千葉県の北総育成園の感染状況でも理解できることですが、コロナ感染による利用者・職員の生命の保証ができるかという大きな課題に遭遇します。
現実的に障害者の感染者が病院での治療を受けることが可能になるのか、今後の国の感染症対策にとりあげてもらいたいと考えます。
- ・入所施設に関するコロナ感染防止策のマニュアルを完備はしているものの 5 月 20 日現在、フェイスガードやガウン等の購入の目途がたらず、国の施策として医療関係機関を最優先として、高齢者、障害者の施設に順次配布する用品提供の対応を検討していただきたい。
- ・今回のコロナ感染に関しては、今までの非常災害と異なり、人と人との関係を遮断することが優先されましたが、ひとたび上記の医療機関や高齢者、障害者の施設にコロナ感染が発症した場合には、1 施設で対応することは不可能であり、今後の感染症対策として、国・県などがイニシアチブを発揮して、自衛隊の医療機関などが優先的に支援に乗り出すなどの具体策を講じてほしいと思います。

静岡県下田市加増野 375-1
伊豆つくし学園
施設長 内田哲正
TEL0558-28-0106
FAX0558-28-0987

(19)

～ FAX 送信案内状 ～

令和 2 年 5 月 21 日

送信先

障がい者福祉研究所

様

発信者 〒820-0049

福岡県飯塚市建花寺 975-1

社会福祉法人 東ノ原会

TEL 0948-29-8800

FAX 0948-29-8801

担当 (藤田)

下記の通り書類を送信しましたので、ご査収下さい。

送信 枚

…… 要 旨 ……

先日、頂きましたアンケートの回答を送りますのでご確認下さい。

①通常帰省されていた方が帰省できずに不安定になり、個別の対応が必要である為

通常業務に支障があった。 また、通院等も出来ず日程変更など、突発的な事への

対応が大変だった。

②下請け業者が停止しているため、通常を送れないことに利用者様が混乱し、また、

業者との対応も困ることがあった。

③三蜜を避けたくても、園内のみでの生活に不安定になる利用者様も多く、職員数を減ら

し勤務することが出来ない。

(18)

障がい者福祉研究所 担当係様

アンケート内容

1. 新型コロナで困っている点は大きなものではありませんが、当施設は入所施設、GHもあるので感染予防の観点から3月から現在まで利用者さんを帰省させることができておりません。利用者さん、保護者の皆様には大変なご苦勞をおかけしていると思っています。自閉症の方でパニックになる方、ストレスがたまってトラブルを起こす方、保護者の方も我が子に会えない辛さなど電話口でも察することができます。その様な中でも保護者の皆様からは私達職員に労いのお言葉をいただいたり、多くの保護者が手作りのマスクを施設や職員に送って下さったりと日頃からの施設と保護者の繋がりに感謝しております。千葉の北総育成園のクラスターの件がありましたので、施設内で感染者を起こしては地域で魔女狩りにあってしまう恐れがあるので、万一その様な自体が起きたときは怖いなと感じています。
2. 放課後等デイ、生活介護など通所系の事業は利用者が利用を自粛する人もおりますので、収入面で圧迫される面があります。

アンケートに因りお礼申し上げます。

茨城県筑西市小埜861 障害者支援支援 ピアしらとり
↳ 社会福祉法人 征峯会 施設長 石井浩之
Fax 0296-22-5973

~~東海市 Fax 052-603-0521~~
吹田市 Fax 06-6389-0627 (17)

障がい者福祉研究所様

アンケートのお願い文書を送付いただきましたので事業所の立場から、特に困っている4点を上げました。参考にしてください。

理事長 木村 雅英

新型コロナウイルス感染症が原因で困っていること

【事業所の立場から】

問題点の概要

1. ガイドヘルプ、ホームヘルプの利用が激減している。
2. 早期にPCR検査が行われないために利用者、家族、職員の不安が増幅されている。
3. グループホームでは熱発者が出ても支援を続けられないといけませんが、場所を限定すること、職員を固定すること、防護服での対応にも限界がきている。
4. 授産製品の売り上げが激減しており、利用者工賃の支払いが難しい。

具体的事例

1. 事業所収入の落ち込みで運営存続の危機になっていること共に、登録ヘルパーが利用者宅に行きたがらないことと、仕事（ガイドヘルプ）の激減により、他の職種に流れている。コロナが治まってガイドヘルプの需要が増してもその際に対応できる職員がいなくなってしまう。
2. 熱発しても4日以上経たないとPCR検査をしてくれない。医師も診てくれない。結果がでるのは2、3日後。現在は少し緩和されたが、PCR検査の結果がでるまでは、本人、家族、職員が非常に不安なままの対応となる。対象者の濃厚接触者も健康管理が必要になる。周りが非常にナーバスな状態となる。少しでもPCR検査が早くできれば対応する時間も短くなり、利用者、家族、職員のストレスも大幅に軽減できる。
3. グループホームでは、その間、コロナの疑いのある者として熱発者の支援をずっとしないといけけない。上記のような1週間の間、グループホーム内で他の利用者との接触を避けて、クリーンゾーン、グレーゾーン、レッドゾーンとを分けての介助は困難を極める。熱発者対応は一定の職員（こちらでは5人）に限定して日中も夜間も順番に支援していくことになるので、特別にその人数の職員の確保が必要になる。防護服、手袋、マスク、ゴーグル、簡易トイレ等々も必要になり、熱発者が多数でると対応できない状態。上記の対応を続けるにも、歩き回る利用者だとグループホーム内でクリーンゾーン、グレーゾーン、レッドゾーンと区分けすることは不可能に近い。備品もはじめは使い捨てて対応していたが、使い捨ててできるだけストックがなくなっている。別室対応でいられるように別の部屋を借りたが、それらの費用、人件費等々、余分にかかっているが、そのための補助がない。そもそも、泊りの職員を学生アルバイト等に頼ってきた中で、人の手配ができなくなってきている。
4. パン屋の売り上げ減が一番厳しい。店舗営業、ネット販売もしているが、普段、出張販売していた職場への出入りが全くストップしてしまったので、売り上げが半減以上している。このままの状態が続けば工賃も半減以上してしまう。

(16)

令和2年5月20日

FAX送り状

【送信先】 障がい福祉研究所 代表 足高 慶宣 様

記

いつも大変お世話になっております。ご依頼のありましたアンケートについて別紙の通り回答いたしますので、何卒取り計らいのほどよろしくお願いいたします。

送信枚数 2 枚（本誌含む）

【発信】社会福祉法人いきいき牧場 元気丸
〒020-0812
岩手県盛岡市川目第6地割93番4

Tel 019 (666) 2323 (代表)
fax 019 (626) 3315

担当 横手 大史

令和2年5月20日

障がい福祉研究所
代表 足高 慶宣 様

社会福祉法人 いきいき牧場

新型コロナウイルス感染症を原因とする福祉現場への影響に関するアンケートへの
回答について

日頃より当法人の運営にご理解ご協力くださり感謝申し上げます。

さて、標記について下記の通り回答いたしますので、ご査収の程よろしくお願いいたします。
ます。

記

1 衛生用品について

日常的に使用している手指消毒用アルコールやティッシュペーパー等の衛生用品の供給が滞り、確保に労力を要した。また価格も高騰傾向にあり支出にも影響が出た。

2 報酬について

通所利用者の親が仕事の関係で県外出張すると、その利用者も利用停止にせざるを得ず、報酬が減額となり運営面で影響が出る。

3 利用者の障がい特性について

障がい特性上マスクを着けれなかったり、咳エチケットが出来ないなど感染症予防の対応に苦慮した。

<照会先>

社会福祉法人いきいき牧場 障害者支援施設 元気丸

担当 横手 大史

〒020-0812 盛岡市川目第6地割93番地4

TEL: 019-666-2323 FAX: 019-626-3315

(13)

新型コロナウイルス感染症を原因とする福祉現場への影響に関するアンケートについて

問題点の概要	1～4・・・障がい者の日中活動が制限されている 5・・・福祉職の地位向上を図らなければ人材不足が加速する
具体的懸念	1. これまで日中活動は、作業を中心としていたが、ほかに外部ボランティアによる活動、他施設合同避難訓練、社会見学、外食、遠足、旅行などを行ってきており、それらが、利用者のモチベーションアップや生活の質向上に貢献してきたが、ほとんどの活動ができなくなってしまった。そのため、利用者のみならず職員のモチベーション低下や利用者同士のトラブルに繋がっている。 2. 今後、コロナ感染者が事業所の職員・利用者から発生した場合、当事業所のような小さな法人は、死活問題となり、感染イコール事業所存続の危機となり、障がい者の生きる場所を失わせてしまうことになりかねない。 3. 国や県の指示は、条件を満たせば介護給付費を支給することもやぶさかでないともとれる趣旨の通知を送ってきているが、それは詰まるところ、「感染するまで営業しなさい」といったようにも見える。もちろん、下手に事業所を休業をすれば家庭の負担・ストレスは大幅に増大することは容易に想像されるため、一概に休業すればよいというものでもない。(特に医療的ケアの必要な者には死活問題である。そういった事業所の休業は困難であるというのは承知している) 万が一、休業要請がなされたとしても「できる限りの支援をしなさい」というような漠然とした指示しかなく、事例もない。また通所施設においては、休業中した場合、訪問支援をすること等が盛り込まれているが、現実問題として新型コロナウイルスの性質を考えれば家庭訪問は全く辻褃が合わない。また、一法人一事業所の場合などにおいては、代替サービスなどない。小さな法人についての救済措置を考えているとは到底思えない。 4. コロナ対策は、「障がい者施設の通所・入所」、「介護施設の通所・入所」と法令上のカテゴリーだけで括るのではなく、各事業所の普段の活動から営業日数を減らすなどして、これまでの実績に基づいて給付費を支給するなどの手立てを考えてほしい。きめ細かく事業所の特性に応じて指示してくれなければ、小さな法人は今後どんどん倒産していくのではないかと不安を感じている。 5. コロナ関連で、福祉現場は大変だという点のみクローズアップされ、にもかかわらず賃金は他業種よりも著しく低く、3Kあるいは4K職場のイメージをますます固定化したのではないかと懸念。福祉職はその仕事に見合った賃金報酬を得られるべきである。特に福祉最高峰の資格である社会福祉士については合格率の低さの割に名称独占資格であり、その賃金が保証されていない。今回の月額8万円も実際には事業所負担が大きい。資格保有者の賃金だけでも向上が図られなければ、今後も人材不足は加速するだろうと考える。 ※最後に。ニュースを見ても、介護や児童についての報道は頻繁にされているが、障がい分野はクローズアップされていない。障がい者にとっては不遇であると感じる。(障がいも身体は別で、知的、精神はクローズアップされているとは感じない)

送付先：〒299-0202 千葉県袖ヶ浦市林437番地1

障がい者福祉研究所 0438-38-6110 (FAX 0438-38-5610)

送付元：〒779-3124 徳島県徳島市国府町中字松の本33番地1

社会福祉法人岡山福祉会まゆやま学苑 088-642-6500 (FAX 088-642-6600)

(14)

F A X 送信表

令和2年5月20日

障がい者福祉研究所事務局 足高 様

アンケートの送付について

いつもお世話になりありがとうございます。
別紙のとおり、アンケート回答を送付します。

送信枚数 1

枚

FROM

奈良県立藤の木学園 (福祉型障害児入所施設)

住所 〒 631-0043 奈良市菅野台2-43

電話 0742-45-0691

F A X 0742-45-0692

担当者 橋本 雅人

メールアドレス

hashimoto-masahito@office.pref.nara.lg.jp

アンケート回答

1. 新型コロナウイルス感染症の拡大及び対応が原因で、障がい児・者とそのご家族、および事業者の皆様が直面している問題点、困っていることなどをご回答ください。

・当施設は、福祉型障害児入所施設です。

〈児童に関して〉

- ・学校が長期休校となり、入所児童のストレス、欲求不満がたまる傾向がある。
- ・新入生の児童にとっては、なかなか学校に行くことができず、不安な日々を過ごしている。
- ・保護者との面会、外出、帰省も取りやめているため、不安、不満を感じている児童も多い。
- ・学校がいつ始まるのか、見通しが立ちにくい児童は不安のために施設内の破壊を行ったり、他害行為が見られた。
- ・一時保護、緊急短期入所の児童に関しては、感染の恐れがあるため、ある程度の期間、個室対応が必要になり、利用する児童が不安定になってしまうことがあった。
- ・重度障がいの児童に関して、マスクができないなどの感染症の対応ができない。

〈施設側として〉

- ・学校が長期休校となったため、日々児童が在園しており、職員の休憩時間の確保が困難。
- ・一時保護、緊急短期入所等の受け入れについて、感染しているかどうか分からないため、対応する職員の不安が大きい。基本的には、静養室など入所児童の生活エリアから離れた生活場所を提供している。
- ・入所児童、職員が感染した場合のその他の児童の生活場所の対応、確保が困難。また、職員が感染した場合、支援する人材が不足し、児童の生活を維持することが困難となる。

(13)

FAX

宛先:	障がい者福祉研究所 様	差出人:	(福) インクルふじ
FAX:	0438-38-5610	FAX:	0545-22-2666
電話:		電話:	
件名:	アンケート返信	日付:	日付

(新型コロナウイルス感染症が原因で困っていること、問題点)

- ・当施設は重症心身障害児（者）の方の通所施設です。支援区分6、医療ケアの方も多く利用されています。
- ・自粛規制中は施設は開所のまま各家庭の判断にお任せして、利用される方お休みされる方がいました。5月31日までは、当該市から給付をいただけることになっているので、安心していますが、「6月以降に関しては無い」とのことなので、不安を感じています。
- ・物品に対して、施設管理のマスクは底をつき、職員は個人のマスクを使用してもらっていますが、店頭ではまだ手に入らず、通販等でマスクを売っていても、価格が高騰していて厳しい状況にあります。業務として必要なマスクなので、本来は職場で用意して職員に配布したいのですが…。手作りマスクを使用している職員もおますが、マスクとしての機能を考えると、それでよいのだろうか・・・？とも思います。
- ・ハンドソープも、通常は通販で購入していますが、入荷待ちの状態です。
- ・活動では、季節を感じる行事やお出かけをしていますが、今年度は今のところ全て中止しました。

管理者 佐藤寿子

(12)

FAX

宛先:	障がい福祉研究所 担当: 事務局 足高 様	差出人:	相談員 西村 五月
FAX:	0438-38-5610	ページ:	2P
電話:	0438-38-6110	日付:	R2.5.19
件名	新型コロナウイルス感染症を原因とする 福祉現場への影響に関するアンケート (回答)		

いつもお世話になっております。

先日いただきましたアンケートの回答を送らせていただきます。

不備等ございましたら、担当西村までご連絡いただければ幸いです。

〒056-0022

北海道日高郡新ひだか町静内高砂3丁目6-14

相談員: 西村 五月

TEL 0146-42-2488

FAX 0146-49-0022

E-mail : Hidaka-commit@bz01.plala.or.jp

相談支援センター
こみっと

障がい者福祉研究所 新型コロナウイルス感染症原因とする福祉現場への影響に関するアンケート

所属圏域: 日高

事業所名: 相談支援センター こみつと

問題点

- 1新型コロナウイルスの影響のもとで、入所施設の利用者や在宅での生活している人に直接会えない(モニタリングを含む。)
- 2通所サービスや就労事業所、学校、児童通所サービス自粛の為、自宅の滞在時間が増えたため、家族の負担が増えている。
- 3利用者の精神面が不安定になっている
- 4障害があるため、感染予防の認識が出来ず、特に自閉の強い方は混乱している。
- 5就労支援事業所が自粛していて、労働の時間が足りない。

具体事例

- 1・直接利用者に会えないことで、生活の本来の様子が、見えてこない。
 - ・モニタリング加算が取れない。
 - ・電話だけでは様子が分からない。入所者は家族と会えず不安になっている方もいる。
- 2・通所を休むことによって、従来の生活パターンが変わってしまい、自閉の強い方は事業所の休みが理解できず混乱している。
 - ・通所が休みになっている事と、外出自粛、休校などの要因がすべて重なり、障害児の養育を家族のみ(特に母親一人のことが多い)で行う事には限界があり、虐待の可能性が増えている。児童と家族のストレスが心配
- 3・テレビの情報などを見て神経質になってしまっている方もいる。マスクをしなくては移ってしまう。感染したら命が危ない。職員など訪室する際にも正しく着用していないと不安で、夜も眠れないと訴える方もいた。
- 4・マスクの理解が出来ず異食行為をしてしまう人、人ごみに出かけてしまう人などいる。
- 5・労働時間の減少で、賃金低下しているので障害年金や生活保護費だけでは生活困難になっている方が出てきている。

(11)

令和 2 年 5 月 19 日

F A X 送信のご案内

この用紙の外に 枚お送り致します

宛 名	障がい者福祉研究所 代表 足高慶宣様
件 名	アンケート依頼について
連 絡 事 項	上記についてご連絡を致しまして、 ご返信のうえにお願い致します。
発 信 者	社会福祉法人榎の里 いすみ学園 施設長 堂下 勉 TEL 0470-86-3412 FAX 0470-86-4935 Email: ismi3412@titan.ocn.ne.jp http://www4.ocn.jp/~ismigakn

生活の変更や変化について

○健康管理

・マスクの着用

感染予防マスクの着用は、職員には徹底しているが、マスクをつけることが難しい利用者もいる。うがい、手洗い、換気、清掃、消毒等、施設内の清潔を保つように注意している。

・職員の勤務

出勤前の検温を毎日行い、発熱があった際は通院して医師の診察を受けてもらうようにした。一定期間は自宅で待機してもらい、職場に感染症の不安要素を持ち込まないようにしている。これにより感染防止は強化されたが職員の休みが重なり、利用者の日課を変更して対応しなければ支援しきれない状況が出ている。

・対策予防

感染症対策の委員会を立ち上げて、有事に向けた対応策の検討や備品の準備をしている。食糧や日用品など様々な用意が必要で、会議を重ねながら対応している。利用者の生活を守る為に必要な日課の変更等も行っている。

防護服等の購入もすすめており、費用も膨らんでいる。

○日課の変更

・利用者の納品を中止している

日課の作業で作った石鹸や加工食品などの製品を納品しているが、感染予防の為に利用者の楽しみだった納品を職員だけの対応としたことで、利用者から不満も出ている。

・市の受託作業を中断している

近隣の公園の草刈や道路沿いの花壇の植栽を委託されているが、現在は活動を停止している。今後、対応することになっても利用者は参加せずに職員だけで行う見込みであり、利用者の日課を変更して人手を確保することを検討している。

・全体で集まる朝礼を中止している

3密を避けるために、体育館に毎朝集まって一日の説明を行うことを中止した。利用者の日課に変更を変更している。

- ・行事の中止や縮小

面会日に行う予定だったお楽しみ会がなくなり、利用者の落胆の様子がみられた。休日の余暇活動や飲食物等で代替の楽しみは提供しているが、「出来なかった」ことは利用者にとって大きな影響を与えている。

○外出制限

- ・帰宅できない

ゴールデンウィーク中の一時帰宅が中止となった。利用者の多くにとってはお正月以来の帰宅であった為、落胆は大きい。今後の見通しもなく、不満が募っている。

- ・面会できない

帰宅のない月は保護者の面会日を設けているが、2月以降は面会日も中止している。予定の変更を納得しにくい方も多く、不満が募っている。

保護者も利用者に会えず、心を痛めている。不安を軽減するために、保護者には担当職員が電話で様子をお伝えするほかに、利用者の写真や手紙を送り、近況を伝えている。

- ・計画書等

個別の支援計画の相談やアセスメントの聞き取り、金銭管理の台帳の説明など、対面して行っていたことが電話でのやりとりになっている。緊急事態の中で、保護者が遠慮したり様々な書類の扱いに戸惑ったりしている。丁寧に話し合うようにはしているが、細かなやりとりが十分にできているか不安は残る。

- ・外出できない

休日は地域に出かけて買い物や飲食を楽しんでいたが出来なくなり、利用者の不満が募っている。マイクロバスでドライブ外出に出かけて気分転換を図っているが、公共トイレの使用も控えており、短時間の外出になっている。感染予防の観点から、コンビニ等への出入りも利用者には控えてもらい、おやつ等は職員が希望を聞いて購入している。希望の物は提供できているが、自分でお店に入れないことや選べないことへの不満は大きい。

- ・グループホーム利用者が移動支援を使えない

地域に暮らすグループホーム（さくらの家・たんぽぽの家）利用者は、休日にヘルパーとの外出や買い物を楽しみにしているが、外出自粛で出かけられない。いすみ学園がバックアップ施設として休日に職員を派遣して支援を行っている。

- ・会社に行けない

グループホーム利用者は就労している方もいるが、感染予防の観点から電車での通勤ができなくなった。いすみ学園職員の送迎で通勤していた方もいたが、現在はほとんどの方がお休みしている。利用者の健康を優先して対応しているが、収入がなくなり経済的には影響がでている。

○保護者の不安

・一時帰宅・面会

帰宅も面会も中止となり、我が子に会えない日々が続いている。学園への個別の訪問も控えてもらっている。学園から電話をかけたり手紙や写真を送ったりして様子を伝えているが、実際にみて触れて確認できないので、不安は強い。

(10)

<ご参考>アンケート回答様式の一例[障がい者のご家族の立場から]

問題点の概要	1. 障がい者の家庭への負担が激増している。 2. . . . 利用者(障がい者)が「サービス利用ができない」「家から外出できない」ストレスが溜まっている。 3. . . . 職員の利用者(障がい者)支援の際、感染リスクの観点から長時間や数人、数組の支援を躊躇している恐れがある。
具体的事例	1. 日常的に通っていた生活介護事業所が、新型コロナウイルス対策により閉鎖された。 家庭で子供(障がい者)の支援を行っているが、日々と違う生活環境になって、家庭内であっても暴れたり不安定な状況に陥ってしまっている。 また、家族も在宅ワークに移行してはいるが、子供の支援を24時間行う必要があり、在宅ワークであっても現状のままでは働いて養うことができない。 2. . . . 利用者(障がい者)が不安定やパニックに陥る。 3. . . . 利用者(障がい者)に対してよりよい支援ができにくい。 また、職員のストレスも溜まり、外出自粛により支援の場がない。

6. お問合せ・送付先等

- ① 郵送先 〒299-0202 千葉県袖ケ浦市林 437 番 1 障がい者福祉研究所 御中
- ② TEL 0438-38-6110
- ③ FAX 0438-38-5610
- ④ Email social-welfare-lab@e-mail.jp

7. その他

- ① ご提供いただいたアンケート内容は、議員連盟所属国会議員に提供し、勉強会・議員連盟での検討課題とさせていただきます。
- ② ご提供いただいた内容は、勉強会・議員連盟の活動のみに利用致します。

以上

令和2年5月19日 FAX

宇和島市御幸町一丁目2番8号

社会福祉法人 宇和島福祉協会

理事長 上 甲 カズ子

(担当: 山口 浩平)

04

Fax. 0895-23-2941

F A X 送 信 表

⑨

送信年月日		令和2年5月19日			
宛 先	FAX番号	0438-38-5610			
	障がい者福祉研究所				
用 件	代 表 足 高 慶 宣 様				
	大変お世話になっております。				
件	「新型コロナウイルス感染症を原因とする福祉現場への影響に				
	関するアンケートのお願い」についての回答を別紙のとおり送信し				
	ますので、よろしくお願い致します。				
発 信	〒038-2817				
	青森県つがる市森田町床舞鶴喰104-2				
	西 北 五 広 域 福 祉 事 務 組 合				
	森 田 学 園				
	園 長 野 呂 公				
	TEL (0173) 26-3100 (代)				
	FAX (0173) 26-2396				
E-mail moritafk@beach.ocn.ne.jp					
担当者	職 名	児童指導員		氏 名	佐藤みくる
サ イ ズ		B 4	B 5	A 4	※この通信表 を含む枚数
送 付 枚 数				3	

令和2年5月19日



障がい者福祉研究所

代表 足高 慶宣 様

新型コロナウイルス感染症を原因とする福祉現場への影響に関する

アンケートのお願いについての回答

法人名	西北五広域福祉事務組合
施設名	森田学園
記入者氏名	佐藤 みくる
連絡先	0173-26-3100

問題点の概要	1. 施設行事の中止 2. 非接触体温計の購入困難 3. 日中一時支援、短期入所の利用停止 4. 来客の対応
具体的事例	1. 普段外出する事が出来ず、行事を心待ちにしている児童がいます。特に外食やバスに乗る事を楽しみにしている児童にとっては、精神的ショックを与えている事になり、不安定な状況になる事が懸念されます。 2. 当施設では、職員、入所児童の検温を実施しています。現在非接触体温計1つで対応しています。児童の起床時間と職員の登庁時間が同じなので、工夫してありますが、新しい体温計が届けば、互いにスムーズに進行できるのではないかと考えています。 3. 日中一時支援や短期入所を利用したい保護者には負担が生じている可能性がある

	ります。 4. 現在来客者が訪問した際は施設内に入る場合は検温を行い、入らない場合は風除室での対応をとっています。通常業務に加え、このような負担を担っています。また、同時に複数の来客があればその場合は、扉を開ければ密閉は回避されるも、密室、密接状況にあります。
--	--

以上、当施設の現状となります。よろしくお願い致します。

担当：森田学園 児童指導員 佐藤 みくる

電話：0173-26-3100 FAX：0173/26-2396

住所：〒038-2817 青森県つがる市森田町床舞鶴喰 104-2

Mail：moritagakuen.shg-kouikihukushi.jp

⑧

障がい者福祉研究所 様

「新型コロナウイルス感染症を原因とする福祉現場への影響に関するアンケート」の回答を送付いたします。

石川県白山市徳丸町625-1

社会福祉法人松の実福祉会 松の実園 担当者：杉森 FAX 076-274-2360

問題点の概要	1. 利用者が行う作業が激減している。(就労継続B支援事業) 2. 利用者の工賃(給料)を大幅にカットしなければならない。 3. 自家製クッキーの販売低迷。 4. ウェス(工場用の雑巾)製品の受注減。
具体的事例	1. 地元観光産業全体の自粛により観光みやげの需要が激減したことにより、当事業所で行っている菓子箱折り作業が3月からほぼ休止状態になっている。 2. 作業激減の影響で工賃が3割カットされた。現在プールしてある資金は半年分であり、観光産業が回復しなかったらプール資金も底をつき利用者に工賃を支払えなくなるかもしれない。 3. 道の駅などで販売している自家製クッキーが来店客減少により販売低迷している。 4. 地元の複数の工場用のウェスを生産しているが、地元工場の稼働縮小のために受注が半分以下になった。

F A X 送 信 票

7

令和 2 年 5 月 19 日

次のとおり送信します。

送 信 先	障がい者福祉研究所 足高 様
F A X 番 号	0438-38-5610
電 話 番 号	0438-38-6110
件 名	新型コロナウイルス感染症を原因とする福祉現場への影響に関するアンケート調査について（回答）
枚 数	計 1 枚（送付票を除く）
発 信 者	所沢市立 松原学園 担当 喜多濃 〒359-0002 所沢市中富1535-1 TEL 04-2990-3488（直通） FAX 04-2943-2322 E-
備 考	お世話になっております。 標記の件につきまして回答します。よろしくお願い致します。

●問題点の概要

- ①障害児の家庭への負担が増加している。
- ②職員の緊張感が高まっている。

●具体的事例

- ①松原学園は休園にはなっていないが、登園の自粛により 9 割方の園児が在宅生活となっている。家庭内のみの窮屈な生活で園児本人の体力等があり余り、騒いだり動き回ったりして、他の家族にストレスが溜まっている。園児本人への支援はもとより、家族に対する支援も必要となっている。
- ②子ども達に新型コロナウイルスをうつしてしまうことのないように、職員自身が感染しないために勤務場所でも私生活でも厳重注意を払っている。職員の緊張感はかなり高まっている。

6

FAX送信のご案内

2年5月18日

送信先

障がい者福祉研究所様

発信者

社会福祉法人桐の実会

わたらせ養護園 (担当)

太田

〒376-0181 群馬県桐生市新里町奥沢 59-1

TEL 0277-74-0343 FAX 0277-74-0122

新型コロナウイルス感染症を原因とする
《用件》福祉現場への影響に関するアンケート

日頃より大変お世話になっております。
標記の件につきまして下記の通り送信させていただきますので、よろしくお願い申し上げます。

記

送信枚数 (本紙含まず)

/ 枚

5

新型コロナウイルス感染拡大に伴う対応について

R2.5.18 (fri)

わたらせ養護園 施設長 太田徹

対応について困りごと

- ・感染者が発生した場合、隔離をする適当なスペースが足りない。
- ・BCPを作成したが、実際、感染者が出た場合、職員だけで対応するのは難しいと予想される。
- ・非接触型の体温計、マスク、アルコールを注文しても手に入りにくい。
- ・医療関係だけではなく、防災グッズや細かい部品に至るまで、流通や工場のストップ等で手に入りにくいものがある。
- ・保育園に子どもを預けている職員がいるため、自粛モードが進んでしまうと出勤ができず、児童の支援や施設運営に問題が生じる。
- ・コロナウイルス感染者が出た場合、行政の方がどのように対応してくださるか具体的に分からず不安である。
- ・毎日の検温をする手間が増えた。
- ・福祉型障害児入所施設だが保護者との帰省、外出、面会を禁止しており、児童、保護者ともに負担になっている。
- ・児童の余暇活動として行っている公園や買い物の外出、図書館、遊園地等に出かけられないため、児童の負担になっている。
- ・外部との接触を極力控えているため、必要性が高い児童相談所との連携さえとりにくい。
- ・学校が休校になり、入所児童が教育を受けられない。
- ・通院や散髪等必要な外出についても必要性を慎重に判断しなくてはならない。
- ・業者とのやり取りも必要性や時期について慎重に判断しなくてはならない。
- ・厨房は飛沫感染のフィルムを張って業者や入所児童に対応している。
- ・外部との会議や交流が中止になっているため、情報交換がしにくい。

5/20
うみねこ学園

裏面

5

<ご参考>アンケート回答様式の一例〔障がい者のご家族の立場から〕

問題点の概要	1. 障がい者の家庭への負担が激増している。 2. . . . 障害児入所施設の昼食代について 3. . . . " 給食業務委託費について
具体的事例	1. 日常的に通っていた生活介護事業所が、新型コロナウイルス対策により閉鎖された。 家庭で子供（障がい者）の支援を行っているが、日々と違う生活環境になって、家庭内であっても暴れたり不安定な状況に陥ってしまっている。 また、家族も在宅ワークに移行してはいるが、子供の支援を24時間行う必要があり、在宅ワークであっても現状のままでは働いて養うことができない。 2. . . . 学校休業期間中、学校給食がないので、食費が施設負担 3. . . . 施設昼食が増加したことで、給食管理費もあわせて増加するが、それも施設負担になる

6. お問い合わせ・送付先等

- ① 郵送先 〒299-0202 千葉県袖ケ浦市林 437 番 1 障がい者福祉研究所
- ② TEL 0438-38-6110
- ③ FAX 0438-38-5610
- ④ Email social-welfare-lab@e-mail.jp

7. その他

- ① ご提供いただいたアンケート内容は、議員連盟所属国会議員に提供し、勉強会・議員連盟での検討課題とさせていただきます。
- ② ご提供いただいた内容は、勉強会・議員連盟の活動のみに利用致します。

以上

4

Date

No.

新型コロナウイルス感染症を原因とお福祉現場への 影響に関するアンケートの回答

〔障害福祉サービス事業所の立場から〕

問題点の概要 ○施設への感染を逆に配慮し欠席する利用者がある。

具体的事例

・上記利用者の家族が「整骨院」を営業しており
患者と濃厚接触したため、利用者側から
『新型コロナウイルス』を感染させたとの配慮は4月7日
から欠席状態となっている。



・5月15日に福岡県は「緊急事態宣言」が解除さ
れたので、再び登園を促した。



しかし他の8都道府県が「緊急事態宣言」解除さ
れていないので、当面（少なくとも5月一杯）は欠席するとのこと。



幸い上記利用者の受給者証を発行している
市は「家庭訪問や電話連絡をした日のみ報
酬を支払う」としていただいている。（事業所の運営上、
欠席期間中全部出席扱いにしていただくとおど
ろがいたいのですが）



Date

Page

2

欠けることは、Xの利用者が50歳代後半で足に不安があり、2ヶ月近くも在宅になると足行もおぼつかないと思うので一刻も早く登園してほしいと思う。

〒839-1415

福岡県うきは市浮羽田妹川2861-4

社会福祉法人

西筑福社会

施設長

土谷浩介

TEL 0943-77-5382

FAX 0943-76-3390

社会福祉法人 栗山の会 ^{北海道} (大空郡)

裏面

3

<ご参考>アンケート回答様式の一例[障がい者のご家族の立場から]

問題点の概要	1. 障がい者の家庭への負担が激増している。 2. . . . マスクが手に入らなくなった。 3. . . . 下りけ作業の量が何も入らなくなった。
具体的事例	1. 日常的に通っていた生活介護事業所が、新型コロナウイルス対策により閉鎖された。 家庭で子供（障がい者）の支援を行っているが、日々と違う生活環境になって、家庭内であっても暴れたり不安定な状況に陥ってしまっている。 また、家族も在宅ワークに移行してはいるが、子供の支援を24時間行う必要があり、在宅ワークであっても現状のままでは働いて養うことができない。 2. . . . 値段が高いマスクを量あつても（支給が）いらない 職員のマスクも足りず対応した。 3. . . . 物販がストップしたついで 利用者が行なう下りけ作業がなくなり、毎日、余暇を過ごすにいたが、 暇だ！

6. お問い合わせ・送付先等

- ① 郵送先 〒299-0202 千葉県袖ケ浦市林 437 番 1 障がい者福祉研究所
- ② TEL 0438-38-6110
- ③ FAX 0438-38-5610
- ④ Email social-welfare-lab@e-mail.jp

7. その他

- ① ご提供いただいたアンケート内容は、議員連盟所属国会議員に提供し、勉強会・議員連盟での検討課題とさせていただきます。
- ② ご提供いただいた内容は、勉強会・議員連盟の活動のみに利用致します。

以上

5/8 FAX

障害者福祉研究所様

アンケートの回答

2

1. 知的障害通所就業事業所の通所自費を促した結果
6割の通所減となり、職員に給与が支払えない。

1. 職員の休業給付制度があるが、中小企業者、
大企業であり、費収から70%以上の人員費率
なので支払いが困難。(大企業はみ370人)

(一般企業ではなく、社会福祉法人なので、
全額補填として欲しい。)

1. 家族で面倒を見るのに限界を感じている親が
多く居り、通所を希望しているが、もし感染に
感染したら、たかより集団感染化してしう。
これ等に対する対応策を。

1. 入所施設での職員感染を絶対避ける為、
職員に過緊張状態で勤務してもらっている。
これ等も長きに亘る限界がある。

以上他にお願いがあるが、とり合えず主なもの

社会福祉法人 光友会

理事長 五十嵐 純子

FAX 0458-38-6610番

5/8 FAX-

/

日頃より大変お世話になっております。

私は神奈川県横須賀市にある知的障害者就労支援施設（就労継続B型支援事業所）

あすなろ学苑で施設長をしております三浦と申します。

今回は是非取材で当苑を取り上げて頂きたいメールを送らせて頂きました。

当苑は障害者の職業、経済的自立を支援する為、パン、お弁当を始めとする食品を製造

し、横須賀市内の行政機関、企業、病院、研究所等に訪問販売を行ってきました。

しかし、新型コロナウイルス蔓延による緊急事態宣言で販売先の8割を失いました。

国の持続化給付金制度は対象外（社会福祉法人は対象となっておりますが、施設単位でな

く法人単位で申請しなくてはならない為、当方のように高齢者施設、障害者施設、病院を

複合的に経営し、自主休業していない施設は前年同月売り上げの50%未満になりませ

ん。）

また、就労継続支援B型事業所は福祉施設であり、利用者と事業所は雇用関係がない為

国の雇用調整助成金も対象外です。

海老名市や京都市等一部の自治体では、市が利用者の給与の一部を保障する独自の制度を

発表しましたが、横須賀市はそのような助成がありません。

また、福祉施設は緊急事態宣言が出て利用者の生活が破綻することから営業を求めら

れ、感染に最大の注意を払いながら運営を継続しております。

私達の施設は、休むことも、仕事をする事もできない状態に追い込まれています。

そして、利用者の工賃は31000円（市内の同事業所で最も高い工賃）でしたが、

5月から1/8以下の月額4000円。1日6時間働いて日給200円という有様です。

昨年3月頃より、様々な内部努力を重ねてきましたが、私達だけの力で解決する事は難し

く、クラウドファンディング レディフォーに企画書を提出したところ、採用が決定し5

月25日ー6月30日まで、寄付額に応じた当苑商品をリターンとする「食べて応援」サ

イトがアップされます。

私達と同様に困っている施設は全国に点在しております。

障害者施設の実情を報道して頂きたい、筆をとりました。

プロジェクトの趣旨に関しまして、別紙添付致します。

どうぞ宜しくお願い致します。

連絡先

社会福祉法人心の会 就労継続支援B型事業所 あすなる学苑

〒238-0026 神奈川県横須賀市小矢部4-19-4

電話 046-852-0600 fax046-852-0609

メール miura@sakura-asunaro.com

営業時間 平日 7時30分～16時30分

施設長 三浦麻矢（みうらまや）

murakami@sakura-asunaro.com

差出人: murakami@sakura-asunaro.com
宛先: so
件名: アンケート調査結果
添付ファイル: マスコミ メール内容.docx

障がい者福祉研究所 足高慶宣様

大変お世話になっております。
アンケート調査のご返答です。
別紙をご参照下さい。

現在、クラウドファンディングの準備で、ばたばたしており、

添付書類で当苑の課題は読み解いて頂けるものと存じます。

宜しくお願い致します。

社会福祉法人 心の会 あすなろ学苑

村上 登喜夫

238-0026 神奈川県横須賀市小矢部 4-19-4

TEL: 046-852-0600

FAX: 046-852-0609
